

平成27年度
(平成26年度実施分)

教育委員会の事務の
管理及び執行状況の点検・評価報告書



平成27年10月
大野市教育委員会

大野市教育理念

明倫の心を重んじ 育てよう おおのびと 大野人

人としての生きる道を明らかにし、進取の氣象を育てた明倫の心は、いつの時代においても変わらない大野の学びの原点です。

私たちは、この心を大切に、優しく、賢く、たくましい大野人になるため、学び、育てることに努めていきます。

平成21年3月 大野市教育委員会

明倫（めいりん）とは

大野藩7代藩主土井利忠（1811～1868年）は、藩の政治や経済の建て直しには、新しい知識を学んだ人材が必要であるという考えに基づき、弘化元年（1844年）に藩校「明倫館」を開設しました。

明倫館の「明倫」という言葉は、「皆人倫を明らかにする所以なり」に由来し、人の生きる道を明らかにすること、すなわち、人として守り、行うべき道を明らかにすることを指しています。

明倫館は、当時としては珍しく、武士の子弟に限らず、広く一般家庭の子どもたちにも門戸を開いて学ばせていました。そして、ここで育った人材は、大野藩の商業や鉱業などを盛んにし、藩財政の再建に大きく貢献したといわれています。私たちは、この史実に基づいて、大野の教育の全てを貫く普遍の理念を「明倫」と定めま

す。

大野市教育委員会では、人づくりの根幹は教育であるという考えのもと、平成21年3月、大野市の全ての分野において取り組む基本となる「大野市教育理念」を定めました。

この理念がめざす社会が実現するよう、地域の教育力を高めるための努力をしていきます。

目 次

1	はじめに	1
2	点検・評価について	
	(1) 対象期間	2
	(2) 対象範囲	2
	(3) 点検・評価の方法	2
	(4) 対象事業一覧	2
	(5) 事務事業評価シートの見方	4
3	平成26年度大野市教育委員会の活動状況	
	(1) 大野市教育委員会委員	5
	(2) 教育委員会の会議開催等の状況	5
	(3) 教育委員の活動状況	10
4	教育委員会関係施策の取り組み	
	(1) 平成26年度の教育方針	12
	(2) 点検評価実施結果の概要 (各課)	
	・教育総務課	14
	・生涯学習課	26
	・生涯学習課・文化財保護室	36
	・スポーツ振興室	49
5	学識経験者の意見	
	(1) 評価委員会	59
	(2) 点検評価報告書についての意見	60
6	終わりに	66

参考資料

関係法令	67
平成26年度事務事業評価対象事業一覧表	68
教育委員会組織図	74

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。教育委員会が自らの事務を点検、評価することによって、効果的な教育行政を推進し、さらに住民への説明責任を果たすことを目的としています。

大野市教育委員会では、法制度の趣旨に基づき、平成20年度（平成19年度分の事業を対象）から報告書を作成して公表しています。

本報告書では、今後の効果的な教育行政の推進に資するために、評価委員のご意見等をいただきながら、平成26年度の教育委員会の活動状況や教育委員会が実施した施策全般について、点検・評価を行った結果を報告いたします。

平成27年10月

大野市教育委員会

参考

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価について

(1) 対象期間 平成26年度（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(2) 対象範囲

平成26年度大野市教育方針に基づき実施した、大野市の事務事業評価システム（※）の対象となった92事業（教育総務課29、生涯学習課39、文化財保護室5、スポーツ振興室19）の中から、主要な27事業（教育総務課7、生涯学習課11、文化財保護室3、スポーツ振興室6）、（うち17事業は前年度より継続）をこの評価の対象事業として選定しました。

(3) 点検・評価の方法

事務事業評価システムの評価シートを活用し、学識経験を有する者の意見を聴取した上で、基本施策ごとに主要事業の実施状況を点検・評価しました。

(4) 対象事業一覧（網掛け部分は新たに評価対象とした事業）

基本施策	課等名	点検及び評価を行う 事務事業名	事業費（千円）		
			26年度 決算額	25年度 決算額	増減
心豊かな 人づくり	教育総務課	ふるさと文化創造事業	837	486	351
	教育総務課	国際理解教育推進員配置事業	4,597	4,303	294
	教育総務課	いじめ防止対策事業	634	—	634
	教育総務課	結の故郷教育支援員配置事業	29,492	28,377	1,115
	教育総務課	奨学生結文化伝承事業	180	—	180
	教育総務課	結の故郷奨学金事業	111	—	111
	教育総務課	小学校スクールバス運行事業	13,464	13,421	43
	生涯学習課	生涯学習推進事業	472	779	△307
	生涯学習課	少年教育推進事業	194	1,022	△828
	生涯学習課	ふるさと大野今昔物語集	3,002	2,676	326
	生涯学習課	平成大野丸中学生派遣事業	5,183	—	5,183
	生涯学習課	結の故郷・人づくり学習事業	6,248	6,161	87
	生涯学習課	子どもの読書活動推進事業	910	827	83
豊かな心を 育てる 文化力の育成	生涯学習課	市美術展開催事業	823	725	98
	生涯学習課	文化発信事業	1,443	2,000	△557
	生涯学習課	地域文化振興事業	2,091	493	1,598
	生涯学習課	大野市総合文化祭事業	1,198	1,196	2
	生涯学習課	文化公演事業	4,952	3,687	1,265

基本施策	課等名	点検及び評価を行う 事務事業名	事業費（千円）		
			26年度 決算額	25年度 決算額	増減
豊かな心を 育てる 文化力の育成	文化財保護室	埋蔵文化財発掘調査事業	79	171	△92
	文化財保護室	歴史博物館特別展開催事業	2,192	—	2,192
	文化財保護室	イトヨの里保護啓発推進事業	482	303	179
活力あふれる スポーツ社会の 実現	スポーツ振興室	生涯スポーツ推進事業	2,531	2,496	35
	スポーツ振興室	越前大野名水マラソン開催事業	22,873	16,675	6,198
	スポーツ振興室	各種大会開催事業	4,710	4,584	126
	スポーツ振興室	学校体育施設開放事業	7,572	7,392	180
	スポーツ振興室	福井しあわせ元気国体強化育成 交付金事業補助	2,000	—	2,000
	スポーツ振興室	海洋センター活用促進事業	615	530	85

※事務事業評価システム

大野市では、事務事業評価システムを構築し、事務事業の整理合理化、経費全般の節減合理化及び予算の適正な執行を図っています。

平成19年度から本格導入したこのシステムにより、効率的・効果的な行政運営による行政サービスの向上と職員の意識改革、評価結果の公表による市の行政運営の透明性の向上を目指しています。

評価の仕方は、管理運営経費や国、県の補助事業などを除く主要事業について個別に評価シートを作成し、事業について成果指標を設定、公共関与の必要性や事業の有効性、効率性を評価し、上位者による一次評価、二次評価により評価を行うものです。

平成23年度からは、それまで翌年度に行っていた評価を、年度途中に行うよう改善し、進捗状況の確認や次年度予算要求に反映できるようにしました。

市の事務事業評価の対象になった教育委員会の全事業については、巻末資料の「平成26年度に事務事業評価の対象となった教育委員会関係の全事業」一覧表に掲載しています。

(5) 「事務事業評価シート」の見方

【担当者の評価】…各担当による評価

評価項目は、①公共関与の必要性、②有効性、③効率性 の3点です。

- ① 公共関与の必要性…緊縮財政・行政改革の状況下で、市の関与を精査するために記入
 - 市が関与する必要性の有無、税金を投入することが適切であるかどうか。
- ② 有効性…目的達成に向けて事業が有効に働いたかどうかを記入
 - 市の政策や目的に一致しているほど有効性が高い。
- ③ 効率性…実施した事業の手法や状況について記入
 - 市の費用をかけずに最大限の事業内容を行えば、効率性が高い。

【一次評価】…一次評価者（課、室長等）による総合評価

【二次評価】…二次評価者（部、局長等）による総合評価

- ① ~ ③ に基づく総合評価…事業の実施状況を総合的に判断して記入

【評価の基準】

- A：適切（十分）に実施できた。
- B：概ね適切（十分）に実施できた。
- C：やや不適切（不十分）であった。
- D：不適切（不十分）であった。

3 平成26年度大野市教育委員会の活動状況

(1) 大野市教育委員会委員（平成26年10月25日）（敬称略）

役 職	氏 名	備 考
委員長	洞 口 幸 夫	
委員（委員長職務代理者）	清 水 美 那 子	
委員	山 川 秀	
委員	妙 願 貴 子	保護者委員
委員（教育長）	松 田 公 二	

(2) 教育委員会の会議開催等の状況

ア 教育委員会の開催状況

- ・開催回数 13回（うち定例会12回 臨時会1回）
- ・議 案 43件
- ・付議・報告事項 49件（うち報告2件）

回	開催日	案 件	審議 結果
1	4月25日	議案第11号 大野市社会教育委員の選任について 議案第12号 大野市図書館協議会委員の選任について 議案第13号 大野市博物館運営協議会委員の選任について 議案第14号 本願清水イトヨの里運営協議会委員の選任について 議案第15号 大野市史編さん委員会委員の選任について 報告第1号 専決処分の承認を求めることについて（大野市指定文化財の指定解除） 報告第2号 専決処分の承認を求めることについて（大野市スポーツ競技及び文化振興に関する全国大会等の出場費補助金交付要綱の一部改正）	原案 可決
		・学校教育審議会委員の選任について ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律案の概要について ・教育方針の配布について ・校長会、教育委員と語る会について ・小学校教科用図書採択について	

回	開催日	案 件	審議 結果
2	5月26日	議案第16号 大野市幼稚園入園料及び保育料の減免に関する規則の一部改正について 議案第17号 大野市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について 議案第18号 学校教育審議会委員の選任について 議案第19号 学校教育審議会への諮問について 議案第20号 平成26年度福井県義務教育諸学校教科用図書採択奥越地区協議会の設置及び協議結果に関する決議について	原案 可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・市制60周年市長功労者表彰及び特別表彰の内申について ・戦没者追悼式への児童生徒の参加について ・越前大野城の活用等について ・図書館ボイラーの修繕について ・大野繊維製品商業協同組合からの要望について ・指定学校の変更許可について 	
3	6月26日	議案第21号 大野市結の故郷奨学金基金設置条例案 議案第22号 大野市スポーツ推進審議会委員の選任について 議案第23号 大野市いじめ防止基本方針案 議案第24号 大野市生涯学習推進会議委員の選任について	原案 可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・市制60周年記念市長功労者表彰及び特別表彰被表彰者について ・7月補正予算の概要について ・知事要望について ・教育委員会制度改革について 	
4	7月25日	議案第25号 教科用図書の採択について	原案 可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・市議会7月定例会一般質問について ・教育委員研修について ・指定学校の変更について 	
5	8月7日 (臨時会)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果の公表について 	

回	開催日	案 件	審議 結果
6	8月27日	議案第26号 大野市結の故郷奨学金貸与条例案について 議案第27号 大野市文化会館在り方検討委員会設置要綱案 について 議案第28号 DAINOUスポーツランドクロスカントリー スキー場圧雪車売買契約の締結について	原案 可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月補正予算要求について ・ 7月市議会総務文教常任委員会の報告について ・ 教育委員会制度改革について（情報提供） ・ 全国学力・学習状況調査について ・ 指定学校の変更について 	
7	9月26日	議案第29号 大野市文化会館在り方検討委員会委員の選任 について 議案第30号 平成26年度大野市教育委員会の事務の管理 及び執行状況の点検・評価報告書について	原案 可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 9月市議会の報告 ・ 学校教育審議会の中間報告 ・ アジア国際子ども映画祭のブロック大会について ・ 教育委員の学校訪問の計画について ・ 教育委員研修について ・ 指定学校の変更について 	
8	10月23日	選挙第1号 大野市教育委員会委員長の選挙について 選挙第2号 大野市教育委員会委員長職務代理者の選挙につ いて	原案 可決
		議案第31号 大野市結の故郷奨学金貸与条例施行規則(案) について 議案第32号 大野市文化財保護審議会委員の選任について 議案第33号 大野市博物館運営協議会委員の選任について	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国学力・学習状況調査結果の公表について ・ 市長と語る会について ・ ふるさと学習交流会について ・ 指定学校の変更申請について 	

回	開催日	案 件	審議結果
9	11月28日	議案第34号 大野市結の故郷伝統文化伝承条例案 議案第35号 大野市公民館設置条例の一部を改正する条例案	原案可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校再編にかかる中間報告について ・校長会主催、市長講話・懇親会（12/10）について ・指定学校の変更申請について 	
10	12月25日	議案第36号 教育長の任命について 議案第37号 平成27年度教職員人事異動方針案について 議案第38号 大野市要保護及び準要保護児童生徒就学援助費支給事業実施要綱の一部を改正する要綱案	原案可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・大野市小中学校再編計画（素案）について ・12月市議会の報告について ・指定学校の変更申請について 	
11	1月29日	議案第1号 大野市小中学校再編計画（素案）について 議案第2号 大野市立学校体育施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則案 議案第3号 平成26年度社会教育功労被表彰者の承認について	原案可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校卒業式について ・指定学校の変更申請について 	
12	2月26日	議案第4号 平成27年度大野市教育方針について 議案第5号 大野市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案 議案第6号 大野市幼稚園設置条例の一部を改正する条例案 議案第7号 大野市博物館設置条例の一部を改正する条例案 議案第8号 大野市いじめ問題対策連絡協議会設置条例案 議案第9号 大野市いじめ防止対策研究委員会設置要綱を廃止する要綱案	原案可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度予算の概要について ・感謝状贈呈式について ・指定学校の変更申請について 	

回	開催日	案 件	審議 結果
13	3月26日	議案第10号 大野市教育委員会公告式規則等の一部を改正する規則案 議案第11号 大野市結の故郷伝統文化伝承条例施行規則案 議案第12号 大野市博物館管理運営規則の一部を改正する規則案 議案第13号 大野市幼稚園入園料及び保育料の減免に関する規則を廃止する規則案 議案第14号 大野市結の故郷ふるさと教育推進計画策定委員会設置要綱案 議案第15号 大野市現役世代交流促進事業補助金交付要綱案	原案 可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会制度改革に伴う規則の改正案について ・総合教育会議の持ち方について ・3月定例市議会審議結果について ・平成26年度学校評価書について ・平成27年度市職員及び教職員人事異動について 	

(3) 教育委員の活動状況（教育委員会以外の主なものをあげてあります。）

月 日		活 動 内 容
4月 1日	火	教員辞令交付式（大会議室）
4月 4日	金	新採用・他管転入教職員等研修会（中会議室）
5月 8日	木	市町教育委員会連絡協議会総会・研修会（勝山市）
5月25日	日	第50回越前大野名水マラソン開会式（結ステーション）
6月 8日	日	第57回市民総合体育大会 球技・相撲の部（市内各会場）
6月20日	金	校長会「教育委員と語る会」（職訓センター）
6月22日	日	第57回市民総合体育大会 陸上の部（ふれあい公園）
6月28日	土	青少年健全育成推進大会（めいりん）
7月 1日	火	市制施行60周年記念式典（文化会館）
7月19日	土	第28回大野市小学生相撲選手権大会（エキサイト広場）
8月 1日	金	教育懇談会（中会議室）
8月14日	木	小学生ふるさと芸能発表会芸能発表会（結ステーション） 中学生みこし・ダンスパフォーマンス（六間通り）
8月27日	水	第35回大野市美術展開会式
8月31日	日	第35回大野市美術展表彰式
9月 4日	木	小学校連合体育大会（ふれあい公園）
9月11日	木	奥越地区中学校駅伝競走大会（ふれあい公園）
9月25日	木	中学校連合音楽会（文化会館）
10月 5日	日	アジア国際子ども映画祭表彰式（結とぴあ）
10月10日	金	教育委員学校訪問（富田小、乾側小、陽明中）
10月13日	月	大野市子ども会育成連合会チャレラン大会（めいりん）
10月13日	月	第18回大野市スポーツレクリエーション祭（エキサイト広場）
10月15日	水	第67回小学校連合音楽会（文化会館）
10月17日	金	教育委員学校訪問（有東小、阪谷小）
10月26日	日	第48回大野市総合文化祭中学校吹奏楽祭（文化会館）
10月28日	火	教育委員視察研修（米原市民交流プラザ）
10月29日	水	教育委員視察研修（京都市藤城小学校他）
10月31日	金	教育委員学校訪問（上庄小、上庄中）
11月 1日	土	第48回大野市総合文化祭 開祭式（結とぴあ）
11月10日	月	教育委員と市長の懇談会（横会議室）
11月16日	日	第51回奥越ふれあい駅伝（奥越ふれあい公園陸上競技場）

月 日		活 動 内 容
11月20日	木	教育委員学校訪問（下庄小、尚徳中、小山小、開成中）
11月25日	火	教育委員学校訪問（有西小、有南小）
11月26日	水	小学生ふるさと学習交流会（文化会館）
11月30日	日	大野市男女共同参画推進講演会（めいりん）
12月10日	水	校長会主催市長講話（中会議室）
1月11日	日	成人式（文化会館）
2月 1日	日	第58回市総体冬季スキー競技会（九頭竜スキー場ほか）
2月22日	日	平成26年度生涯学習フォーラム（めいりん）
2月28日	土	第21回IZUMIクロスカントリースキー大会（DINOUSポーツランド）
3月 1日	日	第36回九頭竜スキー選手権大会（九頭竜スキー場）
3月10日	火	市内中学校卒業式（開成・陽明・上庄・尚徳・和泉）
3月18日	水	小学校卒業式（有西・有南・有東・阪谷・富田）
3月19日	木	小学校卒業式（小山・乾側・下庄・上庄・和泉） 幼稚園卒園式（小山・上庄）
3月20日	金	幼稚園卒園式（富田）
3月26日	木	退職教職員感謝状贈呈式（結とぴあ）

平成26年度 大野市教育方針

「結の故郷 越前おおの」の実現のための柱である「人が元気」を推進するため、教育の普遍のバック・ボーンである大野市教育理念に基づき、古来より大野の先人が培ってきた豊かな人間性をしっかりと受けとめ、学び合い、優しく、賢く、たくましい大野人を育てることに努めます。そのために、「ふるさとを知り・ふるさとを創る」活動を推進し、ふるさとに関わる学習、地域活動を通して、結の精神の醸成に努めます。

教育理念	基本施策と重点施策(第五次総合計画)	本年度に重点的に取り組む事業	本年度成果指標等	合言葉
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">明倫の心を重んじ 育てよう 大野人</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">心豊かな人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆特色ある学校づくり ◆生涯学習の推進 ◆地域を担う人材養成 ◆心豊かな青少年の育成 ◆国際感覚のある人づくり 	<p>○学校再編計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校再編計画について、区長会やPTA等の意見を踏まえて学校教育審議会に諮問し、中間答申に基づく再編計画素案を作成し、関係団体等への説明会を実施する。 ○よりよい教育環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の空調設備を整備し、快適な教育環境を充実する。 ・幼小中の非構造部材耐震化工事を実施し、安全で安心な学校づくりを図る。 ○いじめ問題の克服 <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処のための基本方針を策定するとともに、いじめ問題対策連絡協議会を設置して、いじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進する。 ○学校の教育力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある学校づくりを支援し、各校の創意工夫を生かした教育実践の充実を図る。 ・市全体研修会「大野っ子」育成の集いの開催や中学校区研修、校内研修を支援し、教員一人一人の指導力の向上を図る。 ・保育園・幼稚園、小学校、中学校、高等学校間の接続が円滑に行われるよう連携の充実を図る。 ・県立奥越特別支援学校との連携を深め、センター的機能を活用した特別支援教育の推進を図る。 ・小学校における英語教育の研修を充実させるとともに、デジタル教育機器・教材の活用を進めて、児童生徒の国際化・情報化に対応できる力の育成を図る。 ○ふるさとに関わる学習、地域参加活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校で、ふるさとに関わる学習の充実を図るとともに、小学生による「結の故郷ふるさと学習交流会」や、中学生による「結の故郷中学生みこし・ダンスパフォーマンス」を開催する。 ・小学校4、5、6年生で、大野の先人(土井利忠、尾崎琴洞、金森長近)の偉業を学ぶ道徳教育を実施するとともに、新たに竹内均についての資料を作成する。 ○キャリア教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・職業体験として、2小学校で一日保育体験を実施し、命の大切さや親への感謝の気持ちを育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の市平均値が全国平均値を国語、算数・数学のA・B問題とも上回る 〔25実績;小学校 上回った、中学校 上回った〕 【26目標;小学校 上回る、中学校 上回る】 ○不登校児童生徒数の割合 〔25実績;小学校0.06%、中学校2.46%〕 【26目標;小学校0.25%、中学校2.10%】 ○「将来の夢や目標を持っている」児童生徒数割合 〔25実績;小学校87%、中学校75%〕 【26目標;小学校90%、中学校80%】 ○ふるさとに関する学習の年間目標実施合計時間 (小学校で250時間以上、中学校80時間以上)を達成した学校数 小学校【25実績;全校(平均338時間)】【26目標;全校】 中学校【25実績;全校(平均101時間)】【26目標;全校】 ○一日保育体験実施小学校数 〔25実績;2校〕【26目標;2校】 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">「行う人」も「観る人」も「支える人」もみんなが主役</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">豊かな文化心を育て成る</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆文化的遺産の保存と活用 ◆文化芸術の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統文化の継承・文化財の調査研究と普及啓発 <ul style="list-style-type: none"> ・市指定文化財「田村又左衛門家屋敷」の平成27年度の一般公開に向け、施設及び備品の整備を行う。 ・市内に点在する史跡など、新たな市指定文化財候補となる文化財の調査研究を行う。 ・結の故郷発祥祭事業として、大野にゆかりの深い「大野出目家」の能面展を開催し、郷土に対する誇りと愛着の啓発を図る。 ○優れた文化芸術に触れる機会の提供、地域の文化芸術資源の活用 <ul style="list-style-type: none"> ・優れた文化芸術に触れる機会を提供するとともに、市民団体が公開する文化芸術活動を支援する。 ・市民所有の絵画展を開催し、本市にある貴重な絵画の存在を広く市内外に発信し、文化の振興を図る。 ・市民の創作活動を支援し、新しい文化の創造と新たな人材の発掘や育成を行い、文化芸術の発展に努める。 ○文化施設の適切な維持管理と展示内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・越前大野城を含む博物館、本願清水イトヨの里などの適切な管理と来館者に親しまれる運営を行い、来館者の増加に努める。 ・文化会館の適切な管理と、今後の在り方、整備の方向性を検討する。 ・和泉郷土資料館を化石に特化した施設として展示部門の充実等を図り、穴馬民俗館については展示品の有効活用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市指定文化財件数 〔25実績;109件〕【26目標;113件】 ○市が支援する文化公演などの回数 〔25実績;14回〕【26目標;16回】 ○大野市美術展の来場者数 〔25実績;1,822人〕【26目標;2,000人】 ○博物館入館者数 〔25実績;44,514人〕【26目標;45,500人】 ○本願清水イトヨの里の入館者数 〔25実績;11,858人〕【26目標;12,000人】 	
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">活スカーあふつれ社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生涯スポーツの推進 ◆競技力の向上 ◆スポーツ施設の整備と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツに触れる機会の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・第50回を迎える越前大野名水マラソンを彩り運動や運営ボランティアへの市民の参加を促し、「行う人」も「観る人」も「支える人」もすべての人が満足できる、結の故郷発祥祭にふさわしい事業とする。 ・スポーツ教室を、多様化する市民のニーズに応えることができるよう、公民館や民間施設、各種スポーツ団体等との連携を深め、より多彩なメニューの提供に努める。 ○「福井しあわせ元気国体」へ向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・新たに策定した大野市競技力向上対策基本方針に基づき、平成30年に開催される「福井しあわせ元気国体」に向け、ジュニア選手の発掘・育成・強化、指導者の確保・資質向上、環境整備、競技スポーツを支える仕組みづくりに取り組む。 ・「交付金事業」を創設し、各種団体に補助し、育成・強化を図る。 ○学校やスポーツ団体との連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校と体育協会やみんスポクラブ等の各種スポーツ団体との連携強化を図り、市民の誰もが気軽にスポーツに取り組める環境の整備を行う。 ○B&G海洋センター事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが水辺で遊ぶ楽しさや水の怖さを学ぶ事を目的に、カヌーを使った水辺の安全教室を継続して開催する。 ・レベルに応じた「水泳教室」を開催し、水に親しむ利用者の底辺拡大を図る。 ・B&G施設のプールの塗装補修を行い、市民が快適により安全に利用できるよう、適切な維持管理を行う。 ○スポーツ施設の整備の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・エキサイト広場体育施設の整備をはじめとして、国体開催に向けた施設の整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名水マラソン参加者数 〔25実績;3,997人〕【26目標;4,000人】 ○みんなでスポーツ参加者数 〔25実績;2,424人〕【26目標;2,500人】 ○スポーツ施設利用者数 〔25実績;257,784人〕【26目標;260,000人】 ○スポーツ大会等での主催者責任による事故等発生件数 〔25実績;0件〕【26目標;0件】 	
<p>市長部局との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共に力を合わせる結の故郷づくり ・結の故郷発祥祭事業 ・男女共同参画社会の推進 ・人権尊重社会の実現 <ul style="list-style-type: none"> ○食育に関する事業 ○子ども子育て事業 ○公共施設の再編など 				

4 教育委員会関係施策の取り組み

(1)平成26年度の教育方針

(前文)

「結の故郷 越前おおの」の実現のための柱である「人が元気」を推進するため、教育の普遍のバック・ボーンである大野市教育理念に基づき、古来より大野の先人が培ってきた豊かな人間性をしっかりと受けとめ、学び合い、優しく、賢く、たくましい大野人を育てることに努めます。

そのために、「ふるさとを知り・ふるさとを創る」活動を推進し、ふるさとに関わる学習、地域参加活動を通して、道徳観及び人間関係力の向上に努めます。

この「平成26年度大野市教育方針」(12頁参考)では、平成22年度策定(計画期間平成23～32年度)した大野市の最上位計画である第五次大野市総合計画の基本施策の中の「心豊かな人づくり」、「豊かな心を育てる文化力の育成」、「活力あふれるスポーツ社会の実現」の3つを教育方針の目標としました。

その教育方針の目標を達成するために、教育委員会の課、室ごとに特に重要な事業を点検評価対象事業として選定し、その実施状況を検証しました。

次頁以降の「点検評価実施結果の概要について」では、各課、各室の平成26年度の「重点施策」、「重点的に取り組む事業」を記載し、〔主要事業の実施状況〕、〔課題と今後の方向性〕、〔成果指標の達成状況〕を記載しています。

なお、平成26年度に、組織機構の変更により教育委員会の4課2室が、2課2室に再編されました。

(参考)

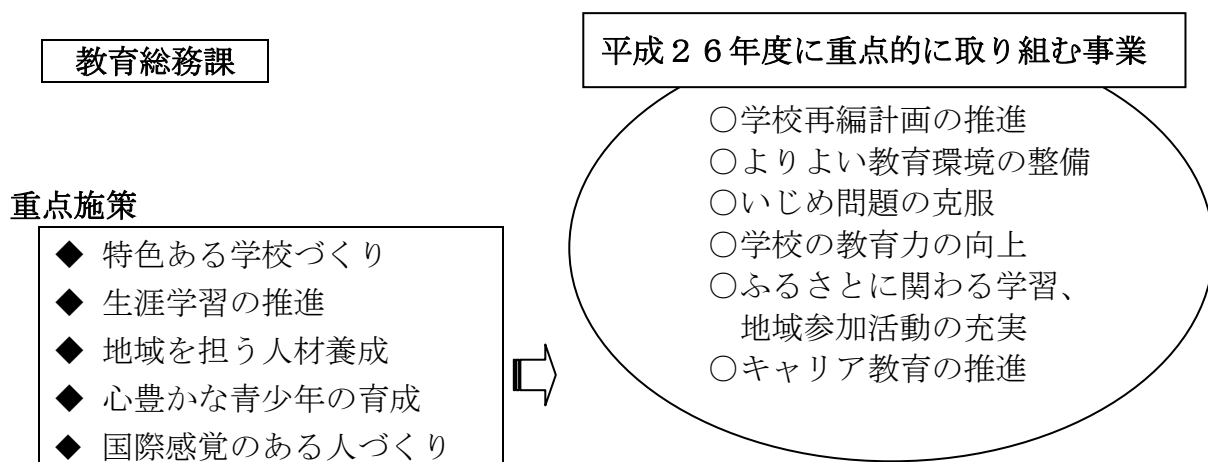
第五次大野市総合計画

【基本施策】(関係分抜粋)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| ○ 心豊かな人づくり | ・・・教育総務課、生涯学習課 |
| ○ 豊かな心を育てる文化力の育成 | ・・・生涯学習課、文化財保護室 |
| ○ 活力あふれるスポーツ社会の実現 | ・・・スポーツ振興室 |

(2) 点検評価実施結果の概要

ア 心豊かな人づくり



① ふるさと文化創造事業

○中学生みこしダンスパフォーマンス

市内5中学校678名が六間特設会場にて、勇壮なみこしと軽やかなダンス・パフォーマンスで「おおの城まつり」を盛り上げました。平成22年度から始まったこの事業も5回目を迎え、元気な中学生の姿を見ることを楽しみにして、多くの方が沿道に集まり、夏を彩る「おおの城まつり」のイベントの1つとして定着してきました。

参加した生徒達は、みこしやダンスを通じた交流で他校の頑張りに刺激され、自分たちの力を合わせることで仲間との一体感が生まれ、ふるさとに貢献した喜びや新しい若者文化の創造に寄与する達成感を味わう機会となりました。

○結の故郷ふるさと学習交流会

平成23年度から始まったこの交流会は、今年で第4回を数えました。市内5小学校3・4年生の児童が、校区や市に関する伝統文化、自然、産業、人々の活動などについて、総合的な学習の時間や社会科、理科の授業等で学習した成果を発表し、交流することを通してふるさとに対する意識を高めました。

参観した保護者からは、「地元に住んでいながら、ぜんぜん知らなかった。」「行ってみたいと思う場所もあり、親子で共通の話題が増えた。」などの感想が出され、交流会を機にふるさと意識の輪がひろがりました。

○「大野の宝 先人に学ぶ」道徳読み物資料

郷土を愛する心を育むことをねらいとして、平成22年度より、優れた業績を残した郷土の先人を題材とした読み物冊子「大野の宝 先人に学ぶ」を各学年

350冊作成し、全小学校において道徳資料として活用しています。幕末の大野藩の財政を立て直した土井利忠公（4年生用）、産業振興に尽力した尾崎琴洞氏（5年生用）、城下町の基盤を作った金森長近公（6年生用）の3人です。

第五次大野市総合計画では平成27年度に「ふるさとに関する学習」年間実施合計時間数、小学校は250時間、中学校は80時間以上を目標としています。

この取り組みなどを通し、「ふるさとに関する学習」年間実施目標時間数は、既に、全ての学校で達成しています。

〔課題と今後の方向性〕

今後も中学生みこしダンスパフォーマンスについては、生徒数の減少による参加体制の見直しや、中学校みこし部会、教育委員会内担当者会、城まつり実行委員会などで互いに検討を行い、安全で円滑な運営に努めていくことが大切です。特に、猛暑や突然の雨、雷といった気象にも適切な対応策を検討しておく必要があります。

現在、おおの城まつりになくてはならないイベントに育ちつつあります。今後も、市職員や青年団体の協力を得て、多くの世代が交流するこの事業を「創造」から「定着」そして「充実」、へと着実に進歩するよう支援します。

また、「大野の宝 先人に学ぶ」道徳読み物資料については、新たに郷土の先人「竹内均」を題材とした読み物冊子を6年生用に作成しました。これらの資料を活用し、ふるさと意識の高揚を図ります。

② 国際理解教育推進員配置事業

A L Tを1名配置し、全ての小学校を訪問して児童と交流する中で国際理解教育を推進しています。

現在、隔週で、5，6年生を中心に外国語活動の授業の補助を行っています。

また、要望に応じて公民館などで外国語講座を開催しています。

〔課題と今後の方向性〕

国際理解の推進に一定の成果をあげていますが、現在は隔週での実施であることから、A L Tの増員を検討する必要があります。現在、県に、その財源にかかる支援を要望しています。

③ いじめ防止対策事業

平成25年6月にいじめ防止対策推進法が制定され、それに基づき平成26年7月に大野市いじめ防止基本方針を策定しました。

その中で、いじめ問題対策連絡協議会を設置し、いじめ防止に向けた取り組みを積極的に実施していくこととしています。今年度は、9月より新たに臨床心理士に

よる教育相談を開始しました。あわせて、情報の共有化を図るために関係機関による連携会議を定期的を開催することとしました。

また、インターネットによるいじめをなくすために、専門家に依頼して学校ネットパトロールのシステムを構築し、ネット内の掲示板に児童生徒のいじめの書き込みがないかチェックできる仕組みをつくりました。

市内の児童生徒、保護者、教職員から標語を募集していじめ防止5カ条を作成し、それを掲示することにより、学校で、家庭で、地域でのいじめの抑止を図りました。

〔課題と今後の方向性〕

いじめ情報の一元化にむけて、青少年教育センターに情報窓口を設置し、その活用を促進しています。今後とも、チラシの配付やあらゆる機会を捉えて更に周知し、集まった情報についても個人情報の取扱に十分留意して、関係機関での共有の方法や連携にかかるマニュアルを早期に作成し、取り組んでいくことが大切です。

また、いじめ問題対策連絡協議会設置後は、関係機関における取組みを要請するなど、一体的に推進する必要があります。

④ 結の故郷教育支援員配置事業

公立幼稚園と小中学校に在籍する、特別な支援を必要とする園児・児童・生徒が、円滑な学校生活を送ることができるように、学校に教育支援員を配置しています。

平成26年度は、特別支援学級在籍の特別支援学校判断相当児童生徒の支援を行う就学支援員を2名、発達障害等を持つ児童生徒の支援を行う特別支援教育支援員を23名、不登校傾向の児童生徒が在籍する学校に登校支援員を2名配置しました。

また、日本語の理解が困難な外国子女等に支援を行う外国人子女等支援員については、配置の必要はありませんでした。

〔課題と今後の方向性〕

年々、発達障害を持つ児童生徒など支援を必要とする児童生徒数は増加しています。このような児童生徒が、学校生活を円滑に送ることができるよう、各校の実情に応じて、教育支援員を配置していきます。引き続き、支援員の専門性を高めるために、研修会を開催したり、学校における支援体制を整備したりしていきます。

⑤ 小学校結文化伝承事業

「結の故郷」のルーツを子どもたちに分かりやすく伝えるため、文章と挿絵を使った読み物資料「わたしたちの結の故郷」を作成しました。

今後、小学校5年生を対象として、道徳などで本資料を使った授業を行います。

〔課題と今後の方向性〕

本資料を使った道徳の授業の実施と指導案の作成を進めていきます。

今後、本事業をふるさと文化創造事業の一環として実施することにより、ふるさと意識の高揚を効果的に進めていくこととします。

⑥ 結の故郷奨学金事業

大学生などの保護者の経済的負担を軽減し、若者の市外流出に歯止めをかけるため、結の故郷奨学金制度の施行に向けて、条例等の整備を行いました。

貸与を受けた方が、卒業後に本市で居住する場合には返済額の半額を免除し、さらに結婚して配偶者と本市に居住する場合には返済額の全額を免除することで、若者の帰郷促進と定住化を図ります。

平成26年度は、企画、条例等の整備のほか、ポスター、募集案内などを作成して県内の高等学校等に配布し、制度の広報を行いました。

〔課題と今後の方向性〕

奨学金基金の適正な管理に努めるとともに、奨学金の返済が始まる平成29年度に向けて、返済のための具体的な事務処理について検討していくことが課題です。

ふるさと大野の若者とその保護者を支援するため、引き続き制度の広報に努め、制度の定着を図ります。

⑦ 小学校スクールバス運行事業

南六呂師地区の阪谷小学校児童、森目・蕨生地区の富田小学校児童の通学において、スクールバスの運行を行っています。このことにより、平成18年度、平成22年度及び平成24年度の統合により遠距離通学となった児童の安全と利便性を確保しています。バス等を3台購入し、運行業務は民間に委託しています。

また、通学に支障のない時間帯には、社会科見学や学校行事などの目的外に運行を行うなど有効活用を図っています。

〔課題と今後の方向性〕

スクールバスの目的外利用は、学校行事等の多様化に伴い年々増加傾向にありますが、運行方法の見直しや対象の適否を見極め、適正な管理に努めます。

また、少人数での運行時にはタクシーを活用するなど効率的に運用していく必要があります。

今後、小学校再編の進展により、スクールバスの増便や運行経路とともにコミュニティバスとしての機能を付加することについても検討していく必要があります。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H 2 6 目標	H 2 6 実績	H 2 7 目標
全国学力・学習状況調査の市平均値と全国平均値の比較	上回る 上回る	上回った 上回った	上回る 上回る
不登校児童生徒数の割合	小学校 0.25% 中学校 2.10%	小学校 0.30% 中学校 2.56%	小学校 0.25% 中学校 2.10%
「将来の夢や目標を持っている」児童生徒数割合	小学校 90% 中学校 80%	小学校 92% 中学校 72%	小学校 90% 中学校 80%
「ふるさとに関する学習」年間実施合計時間数	小学校 250 時間以上 中学校 80 時間以上	小学校 250 時間以上 中学校 80 時間以上	小学校 250 時間以上 中学校 80 時間以上

整理番号 225

平成26年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	ふるさと文化創造事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課	グループ	学校教育		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 心豊かな人づくり			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	22年度	終了年度	25年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	-											

対象	市内小中学校児童生徒										
意図	教育理念の具現化とふるさと文化の創造										

事業内容
 小学校では土井利忠、尾崎琴洞、金森長近、竹内均を題材とした読み物資料を活用した道徳学習や総合的な学習の時間の学習成果をふるさと学習交流会で発表し合う。
 中学校ではおおの城まつりの中で、みこし・ダンスパフォーマンスを披露する。

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	590	665	921	1,705	28.3%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	590	665	921		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	530	486	837		#DIV/0!	ふるさと意識が薄らいでいるため、先人の偉業を学ぶことなどふるさとを知る機会を提供していく必要がある。		
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債					事業開始後の見直し状況		
	その他特定財源							
一般財源	530	486	837			平成26年度に、新たに竹内均氏を題材にした読み物資料を作成した。みこし・ダンスパフォーマンスにおいて、参加体制・日程を見直した。		
国庫・県支出金名称	-							
その他特定財源名称	-					指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	目標	実施事業数(単位:事業)	3	3	3	3	達成状況	活動指標:実施事業数
	実績		3	3	3	-	100.0%	
成果指標	目標	目標を達成した学校数(単位:校)	15	15	15	15	達成状況	成果指標:郷土に関する学習時間数(小学校年間250時間・中学校年間80時間)
	実績		15	15	15	-	100.0%	

公共関与の必要性	ふるさと意識の高揚を図る上で公共関与は必要不可欠である。	
有効性	市民等のニーズとの一致	子どもたちにふるさとへの愛着心を持ってほしいという思いは、大野市民全体の願いである。
	目的達成状況	大野市教育理念の具現化のため「ふるさとを知り、ふるさとを創る」教育活動を実施し、児童生徒のふるさと意識の高揚を図った。中学生みこし・ダンスパフォーマンスの実施、小学生は郷土学習の成果を発表しあうふるさと学習交流会の実施、先人の資料による道徳学習を実施。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	現行の学習内容との兼ね合いによりこれ以上の拡大は困難。現在の事業の中身の充実を図っていく。
	事業費削減の検討	事業費はできるだけ効率的な運用を心がけ削減に努めてきた。今後大きな削減の余地はない。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	実施主体が児童生徒であり、学校活動の一環である部分が多い。みこし・ダンスパフォーマンスでは、市職員、青年団体等の協力の下に実施している。
総合評価	現状分析及び残された課題	教育現場である学校の負担が大きい。

一次評価	事業の評価	みこしダンスパフォーマンスは、おおの城まつりの行事として定着してきており、見物客も増加している。郷土の偉人を題材とした読物資料に本年度新たに竹内均先生を加え充実を図った。郷土に関する学習時間(小学校250時間、中学校80時間)は全ての学校で達成した。ふるさとへの愛着心が育ってきている。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	ふるさとに誇りと愛着を持つ子どもたちを育てるためには、継続的な取り組みが必要である。		見直し額	千円
			評価	A	

二次評価	事業の評価	年々市民からもふるさとの文化として理解が深められてきていると評価している。児童生徒においても、ふるさとの行事に参加することで、ふるさとに貢献しているとの意識高揚につながっている。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	継続的な取り組みが必要である。		見直し額	千円
			評価	A	

整理番号 226

平成26年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	国際理解教育推進員配置事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課	グループ	学校教育		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 [心豊かなひとづくり]			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	11年度	終了予定年度	—年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	—											

事業目的	対象	市内全小学校	意図	国際理解教育の充実を図る。
------	----	--------	----	---------------

事業内容	国際理解教育推進員(A.L.T)を配置し、A.L.Tが市内小学校を訪問し児童と交流する中で国際理解教育を推進していく。 (市内小学校5、6年生の授業に隔週訪問している。)			
------	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率			
当初予算額	4,815	4,357	4,637	8,022	12.5%	行政改革推進プラン —		
3月現計予算額	4,815	4,357	4,677		#DIV/0!	国際理解教育の推進は、今日的課題として重要視されている。		
決算額(執行済額)	4,684	4,303	4,597		#DIV/0!			
財源内訳	国庫支出金						事業開始後の見直し状況	
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
一般財源	4,684	4,303	4,597			外国人子女等支援員配置事業を含んでいたが、平成24年度より結の故郷教育支援員配置事業に統合した。		
国庫・県支出金名称	—					指標設定の考え方、積算根拠等		
その他特定財源名称	—							
活動指標	目標	訪問小学校数(単位:校)	10	10	10	10	達成状況	活動指標:小学校5・6年生の年間外国語活動授業数
	実績		10	10	10	—	100.0%	
成果指標	目標	各校指導回数(単位:回)	170	175	180	300	達成状況	成果指標:年間の各校指導回数
	実績		170	175	180	—	100.0%	

公共関与の必要性	国際理解教育を小学生から推進するためには、公共関与が必要不可欠である。	
有効性	市民等のニーズとの一致	幼少のころから外国人・外国語に触れることに端を発し、国際社会に適応できる人材を育成するニーズは高い。
	目的達成状況	小学校でほぼ予定通り外国語活動の支援を実施することができた。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	新学習指導要領による英語活動の内容充実のため、A.L.Tを授業で活用することが効果的であり、他の事業との統合は難しい。
	事業費削減の検討	国際理解教育の需要は高まっているため、事業としては拡大していくことが予想される。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	学校教育の一環であり、民間委託にはなじまない。市民協働を求める場面はない。
総合評価	現状分析及び残された課題	国際理解の推進に一定の成果をあげており、学習指導要領に基づいた、小学校での外国語活動の学習をより効果的に実施するため、平成27年度よりA.L.Tを2名に増員したい。

一次評価	事業の評価	5、6年生が隔週で外国語活動の指導が受けられるよう、A.L.Tが各小学校を訪問している。児童にネイティブな英語に接する機会を提供することにより、国際理解の推進に成果があがってきている。		方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	新学習指導要領に基づいた小学校での外国語活動の学習をより効果的に実施するため、A.L.Tの増員を検討する。	見直し額		千円	
			評価点	A		

二次評価	事業の評価	A.L.Tの外国語活動が行われたことで、国際理解の推進に一定の成果をあげることができた。		方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	国際理解教育をさらに充実するため、A.L.Tの隔週訪問から週1回訪問にするなどA.L.Tの増員を図る必要がある。	見直し額		千円	
			評価点	B		

整理番号 229

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	いじめ防止対策事業		含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課	グループ	学校教育	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 心豊かな人づくり				事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	27年度	終了予定年度	—年度	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	—											
対象	意図											
事業目的	全市		いじめの防止、早期発見、早期解決を図る									
事業内容	青少年教育センターにおいて臨床心理士による教育相談(カウンセリング)の実施 学校ネットパトロールの実施に向けたシステムの構築とネットパトロール用パソコンの購入 いじめ防止の啓発のためのいじめ防止五か条の作成											
		24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン					
当初予算額		0	0	0	1,775	100.0%	—					
3月現計予算額		0	0	919	#DIV/0!	状況・環境の変化						
決算額(執行済額)		0	0	634	#DIV/0!	平成25年6月28日にいじめ防止対策推進法が公布され、9月28日に施行された。法では、地方公共団体に対しては、「いじめ防止基本方針」の策定に努めるよう求め、学校に対しては、「基本的な方針の策定」を義務化している。さらに、学校の設置者(市)に、いじめの防止等に関する措置や、重大事態への対処等についても規定している。						
財源内訳	国庫支出金						事業開始後の見直し状況					
	県支出金						—					
	地方債						—					
	その他特定財源						—					
一般財源		0	0	634			—					
国庫・県支出金名称	—											
その他特定財源名称	—											
活動指標	目標	教育相談、連携会議の開催			16	30	達成状況	活動指標：教育相談(月2回×12月)24回、連携会議(2ヶ月に1回)6回開催				
	実績	(単位：回)			16		100.0%					
成果指標	目標	いじめの認知件数			35	35	達成状況	成果指標：いじめの認知件数を35件以内とする				
	実績	(単位：件)			25	—	100.0%					

公共関与の必要性	いじめ防止対策推進法の施行に伴い、大野市においていじめ防止対策を講じる必要がある。										
有効性	市民等のニーズとの一致	地域や関連団体からの委員による研究委員会により広く意見や提言を求めている。									
	目的達成状況	7月に大野市いじめ防止基本方針を策定。いじめ防止に向けた取組を行うことができた。3月にいじめ問題対策連絡協議会設置条例を施行した。									
効率性	事業内容、手法、統合の検討	学校ネットパトロールやカウンセリングなど、いじめ防止にかかる取組を委託して実施した。専門性が求められるため、他の事業との統合は難しい。									
	事業費削減の検討	基本方針に基づき取組を推進するため必要な事業費である。大手の事業者へネットパトロールの見積を行った結果、高額な金額を提示された。システム構築を市内の情報機器の専門家に業務委託することで経費を削減することができた。									
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	民間委託している部分はある。									
総合評価	現状分析及び残された課題	「大野市いじめ防止基本方針」に即し、いじめ防止に向けた取組を推進する必要がある。関係団体へ要請していくことも検討を要する。いじめ情報の一元化に向けて、共有の方法や連携にかかるマニュアルの作成を急ぐ必要がある。									

一次評価	事業の評価	いじめ防止基本方針に基づき、専門家を配置しいじめ等の相談会を開催したり、ネットパトロールの取り組みを進めている。					方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了			
	改善方針	いじめに関する情報の一元化、いじめ相談会、ネットパトロールなどの対策内容の充実を図る必要がある。						見直し額	千円		
						評価	A				

二次評価	事業の評価	基本方針に基づき、いじめに関する相談窓口の開設やいじめ防止の啓発、ネットパトロールなど、いじめ防止にかかる取り組みができた。					方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了			
	改善方針	いじめ問題対策連絡協議会を設置し、情報の共有及び連携によりいじめの防止、早期発見、早期解決を図る必要がある。						見直し額	千円		
						評価	A				

整理番号 232

平成26年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	結の故郷教育支援員配置事業		含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課	グループ	学校教育		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行政改革 [心豊かなひとづくり]				事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	-年度	終了年度	-年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	-												
対象	市内幼稚園・小中学校												
意図	特別な支援を必要とする児童生徒が在籍予定である学校に対し支援を講じる。												
事業目的	幼稚園、学校に支援員を配置し、当該園児・児童生徒の教育活動が円滑に行われるように支援する。 (小学校18人・中学校9人 計27人) ・特別支援学校判断相当の児童生徒が在籍する特別支援学級に就学支援員を配置 ・発達障害を抱えた園児、児童生徒が在籍する幼稚園、学校に特別支援教育支援員を配置 ・不登校傾向のある児童生徒が在籍する学校に登校支援員を配置 ・日本語指導が必要な外国人子女等が在籍する幼稚園、学校に外国人子女等支援員を配置												
事業内容	幼稚園、学校に支援員を配置し、当該園児・児童生徒の教育活動が円滑に行われるように支援する。 (小学校18人・中学校9人 計27人) ・特別支援学校判断相当の児童生徒が在籍する特別支援学級に就学支援員を配置 ・発達障害を抱えた園児、児童生徒が在籍する幼稚園、学校に特別支援教育支援員を配置 ・不登校傾向のある児童生徒が在籍する学校に登校支援員を配置 ・日本語指導が必要な外国人子女等が在籍する幼稚園、学校に外国人子女等支援員を配置												
行政改革推進プラン	行政改革推進プラン -												
当初予算額	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度	平均伸び率	状況・環境の変化							
	29,544	30,478	31,015	28,866	-0.8%								
3月現計予算額	24,544	30,478	31,015		#DIV/0!								
決算額(執行済額)	23,206	28,377	29,492		#DIV/0!	発達障害を持っている子はクラスの6%といわれているが、今後、発達障害を持っているということが判明する率は高まると考えられる。							
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況							
	県支出金												
	地方債												
	その他特定財源					平成24年度就学支援員配置事業、特別支援教育支援員配置事業、国際理解教育推進事業(外国人子女支援)との統合、平成25年度登校支援員配置事業を統合することで柔軟な対応を可とし、事業効率を上げる。							
一般財源	23,206	28,377	29,492			平成24年度就学支援員配置事業、特別支援教育支援員配置事業、国際理解教育推進事業(外国人子女支援)との統合、平成25年度登校支援員配置事業を統合することで柔軟な対応を可とし、事業効率を上げる。							
国庫・県支出金名称	-												
その他特定財源名称	-												
指標設定の考え方、積算根拠等	指標設定の考え方、積算根拠等												
活動指標	目標	支援員の配置校数	12	13	15	12	達成状況	活動指標：支援員の配置校数					
	実績	(単位：件)	12	13	15	-	100.0%						
成果指標	目標	延べ支援時間数	25,000	25,000	27,000	25,000	達成状況	成果指標：支援員一人当たりの支援時間数を1,000時間とする。					
	実績	(単位：時間)	25,000	25,000	27,000	-	100.0%						

公共関与の必要性	民間に同様のサービスを提供できる機関がないことから、教育上必要な支援を行うことは行政の責務である。											
有効性	市民等のニーズとの一致	教育上特別の支援を必要とする児童生徒にはそれ相応の支援が必要であることや、教育の機会均等の基本原理から配置は適切である。										
	目的達成状況	予定通り配置を必要とする学校に支援員を配置し、必要な支援を実施できている。										
効率性	事業内容、手法、統合の検討	平成25年度奥越特別支援学校開校に伴い、就学支援員を削減したが、通常学級における気がかりな児童生徒は増加傾向にあるため特別支援教育支援員を増員し、支援員全体としては現状維持となった。平成24年度より他の支援員制度を統合することで、費用を抑えつつ対応している。										
	事業費削減の検討	平成24年度就学支援員配置事業、特別支援教育支援員配置事業、国際理解教育推進事業(外国人子女支援)との統合、平成25年度より登校支援員配置事業を統合することで柔軟な対応を可とし、事業効率を上げる。結果として、増えるニーズに対してコストを抑えつつ必要な効果を得ることができるようになる。										
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	学校教育活動の一環として実施するもので、民間委託にそぐわない事業である。										
総合評価	現状分析及び残された課題	今後、人材の確保と質的向上に努め、効果的な運用を図る。										

一次評価	事業の評価	支援を必要とする児童生徒のいる学級に適切に支援員を配置した。支援員連絡会を開催しお互いに情報交換を行ったが、支援員のスキルアップのための研修を充実させる必要がある。						方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	引き続き支援員の情報交換の場を設けるとともに、支援員のスキルアップを図る必要がある。優秀な人材確保に努めることも必要である。						見直し額	千円	
							評価	B		

二次評価	事業の評価	支援員を必要とする学校に適切に支援員を配置することで、児童生徒の教育活動が円滑に行われた。						方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	退職教員を採用するなど優秀な人材の確保が必要である。						見直し額	千円	
							評価	B		

整理番号 235

平成26年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	小学生結文化伝承事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課	グループ	学校教育		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 心豊かな人づくり			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	26年度	終了予定年度	-年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	-											

事業目的	対象	小学5年生	意図	「結の故郷」のルーツを漫画と文章のわかりやすい資料で理解させ、受け継がれてきた結の心を子どもたちに伝える。
------	----	-------	----	---

事業内容	大野市のブランドイメージである「結の故郷」のルーツを漫画と文章のわかりやすい資料で理解させ、受け継がれてきた結の心を子どもたちに伝えるため、小学5年生を対象とした道徳読み物「わたしたちの結の故郷」を作成する。			
------	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン	
当初予算額	0	0	0	162	#DIV/0!	状況・環境の変化	
3月現計予算額	0	0	200		#DIV/0!	ふるさと意識が薄らいでいる。	
決算額(執行済額)	0	0	180		#DIV/0!		
財源内訳	国庫支出金						事業開始後の見直し状況
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源						
一般財源	0	0	180				
国庫・県支出金名称	-						
その他特定財源名称	-					指標設定の考え方、積算根拠等	
活動指標	目標	実施校数			10	達成状況	活動指標：道徳授業で取り組んだ校数とする
	実績	(単位：校)			10	#DIV/0!	
成果指標	目標	授業時間数			10	達成状況	成果指標：取り組み授業の時間数とする
	実績	(単位：時間)			10	#DIV/0!	

公共関与の必要性	ふるさと意識の高揚を図る上で公共関与は必要不可欠である。	
有効性	市民等のニーズとの一致	子どもたちにふるさとへの愛着心を持ってほしいという思いは、大野市民全体の願いである。
	目的達成状況	読み物「わたしたちの結の故郷」予定通り作成した。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	3人の編集委員に文の作成を依頼した。挿絵については、市内の漫画家に依頼した。
	事業費削減の検討	事業費は、読み物作成にかかる謝礼などで、できるだけ効率的な運用に努めた。平成27年度以降は、印刷費のみとなり、大きな削減の余地はない。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	編集委員は、民間(教員OB)に依頼した。
総合評価	現状分析及び残された課題	平成27年度以降毎年印刷し、市内全小学校5年生に配付する。授業での効果的な活用を研究していく必要がある。

一次評価	事業の評価	受け継がれてきた結の心を子どもたちに伝えるため、分かりやすい読み物「わたしたちの結の故郷」を作成した。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	読み物「わたしたちの結の故郷」を効果的に活用し、ふるさに誇りと愛着を持った子どもを育てる。		見直し額	
			評価	A	

二次評価	事業の評価	受け継がれてきた結の心を子どもたちに伝えるため、分かりやすい読み物「わたしたちの結の故郷」を作成した。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	「わたしたちの結の故郷」を学校のみならず家庭においても活用し、子どもたちに結の心を育てる必要がある。		見直し額	
			評価	A	

整理番号 237

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	結の故郷奨学金事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課	グループ	庶務・施設			
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元氣 <input type="checkbox"/> 産業が元氣 <input type="checkbox"/> 自然が元氣 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	実行予算	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	26年度	経過年数	1年	終了予定年度	年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	心豊かな人づくり												

対象	意図																
事業目的	25歳以下の大学等の在学者で、保護者が本市に住民登録を有し居住している者 保護者の修学上の経済的負担を軽減するとともに、ふるさと大野への帰郷を促進する。																
事業内容	募集要項、ポスターを印刷し、広報を行った。 奨学金制度の概要 ・対象者 25歳以下の大学等に在学する者で、保護者が本市に住民登録を有し居住している者 ・貸与額 自宅通学：月1万円、自宅通学以外：月2万円 ・貸与期間 貸与を開始することとなった月から正規の修学年限が終了する月まで ・減免措置 本市に住民登録をし居住する場合1/2に減額、婚姻の届出をし配偶者と居住する場合返済を免除																
	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン											
当初予算額	0	0	0	180	#DIV/0!	状況・環境の変化											
3月現計予算額	0	0	300		#DIV/0!	若者の市外流出が人口減少の要因となっている。 また、厳しい経済状況の中、修学にかかる保護者の経済的負担が大きい。											
決算額(執行済額)	0	0	111		#DIV/0!												
財源内訳	国庫支出金											事業開始後の見直し状況					
	県支出金											-					
	地方債					-											
	その他特定財源					-											
	一般財源	0	0	111		-											
国庫・県支出金名称	-																
その他特定財源名称	-																
活動指標	チラシ配布箇所	目標		50	80	達成状況	制度広報のためチラシを配布する										
		実績		78		156.0%											
成果指標	奨学金申請者数	目標		60		達成状況	実際に申請があった人数										
		実績				#DIV/0!											

公共関与の必要性	大学等を卒業する青年の市外流出に歯止めをかけ、ふるさと大野への帰郷を促進するため、市内で居住、婚姻する場合に返済額を減免する奨学金制度を市が提供する必要性は高い。										
有効性	市民等のニーズとの一致	帰郷を希望する学生に対し、無利子で減免可能な奨学金制度を提供することはニーズに合致している。									
	目的達成状況	条例、規則を整備し、目的を達成した。									
効率性	事業内容、手法、統合の検討	周知に必要なポスター、チラシの印刷にかかる経費である。									
	事業費削減の検討	最低限の経費と考える。									
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	企画、条例整備等の段階であり、民間委託はそぐわない。									
総合評価	現状分析及び残された課題	奨学金返済が始まる平成29年度に向けて、具体的な返済方法を検討する。									

一次評価	事業の評価	企画、条例整備、広報など、本年度の課題は達成した。広報に関しては、募集案内、ポスター等を高等学校に配布し、市報でも周知を図った。					方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	広報を継続させるとともに、財源として寄附を募ることの検討も必要である。						見直し額	千円
						評価点	A	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
								<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
								<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了

二次評価	事業の評価	結の故郷奨学金事業の条例、規則を整備し、目的を達成することができた。					方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	結の故郷奨学金制度により、保護者の経済的負担を軽減するとともに、ふるさと大野への帰郷を促進する必要がある。						見直し額	千円
						評価点	A	<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
								<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
								<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了

整理番号 244

平成26年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	小学校スクールバス運行事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課	グループ	庶務・施設	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 心豊かな人づくり			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	年度経過年数	終了予定年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	-										

対象	意図										
事業目的	南六呂師地区の阪谷小学校児童、旧森目・旧蕨生小学校区の児童			六呂師地区、旧森目・旧蕨生小学校区児童の通学の利便を図るため、スクールバスを運行する。							

事業内容	対象区域児童の通学の安全と利便を確保するため、スクールバスを導入し、運行を民間に委託している。 また、通学に支障のない時間帯での有効活用として目的外運行を行っている。 ・スクールバスの運行委託（南六呂師地区、旧森目・旧蕨生小学校区児童通学用：通年、通学に支障のない時間帯での目的外運行） ・スクールバスの維持管理に係る経費										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	12,701	13,968	14,483	15,578	6.5%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	12,701	13,968	14,483		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	12,242	13,421	13,464		#DIV/0!	平成22年度に森目小、平成24年度に蕨生小が富田小に統合されたことに伴い、それぞれスクールバスを購入して運行を行っている。		
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債					事業開始後の見直し状況		
	その他特定財源							
一般財源	12,242	13,421	13,464			小学校の再編の進展によりスクールバスの台数が増え、経費が増大しているが、利用児童の利便性を確保しつつ、経費が過大とならないよう適正な管理に努めている。		
国庫・県支出金名称	-							
その他特定財源名称	-					指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	目標	定期便の運行日数	213	213	213	213	達成状況	活動指標：学校の計画に合わせた運行日を活動指標とした。
	実績	単位：回	213	213	213	-	100.0%	
成果指標	目標	利用人数	8,000	8,000	8,000	8,000	達成状況	成果指標：対象児童全員の通学の安全確保と利便向上を図る目的で、利用人数を成果指標とした。
	実績	単位：人	8,000	8,000	8,000	-	100.0%	

公共関与の必要性	遠距離通学となる児童の通学の安全確保と利便性向上を図る必要があり、公共関与の必要性は高い。										
有効性	市民等のニーズとの一致	遠距離通学となる児童の安全と利便の確保ため、スクールバス運行は欠かせず、市民ニーズは高い。									
	目的達成状況	児童の登下校のための運行について計画的に運行し、児童の通学の安全と利便が確保されている。									
効率性	事業内容、手法、統合の検討	運行業務は既に民間委託しており、縮小の余地は無い。今後、小学校の再編の進行状況により増加する可能性がある。									
	事業費削減の検討	スクールバスの活用は、学校行事等の多様化に伴い年々増加傾向にあり、削減は困難であるが、運行方法の見直しや特別運行の対象の精査は継続して行い、費用削減に努めたい。									
	民間委託（公設民営を含む）、市民協働の可能性	運行業務は民間に委託している。									
総合評価	現状分析及び残された課題	概ね効率的なスクールバスの利用が図られているが、少人数での運行時にはタクシー等の利用もできるようにすることで、更に効率的な運行を検討したい。									

一次評価	事業の評価	定期便運行及び学校行事に伴う運行について、経費が過大とならないよう、効率的で適切に運行した。						方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	引き続き効率的な運行計画を立て運行経費の縮減に努めるとともに、事務処理の効率化を進める。						見直し額	千円	
								評価	A	

二次評価	事業の評価	六呂師地区、旧森目・旧蕨生小学校区児童の登下校について計画的に運行し、児童の通学の安全と利便が確保された。						方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	引き続き効率的な運行を図る必要がある。						評価	A	

生涯学習課

【重点施策】（再掲）

- ◆ 生涯学習の推進
- ◆ 地域を担う人材養成
- ◆ 心豊かな青少年の育成
- ◆ 国際感覚のある人づくり

平成26年度に重点的に取り組む事業

- 集い、ふれ合い、学び合う場の提供
- ふるさと意識の向上を図り、郷土愛を育む
- 少年教育の推進
- 国際理解を深める機会の提供

① 生涯学習推進事業

市民の必要に応じていつでもどこでも自由に学ぶことができるように、学習機会や学習情報の提供等を行いました。

学習機会の提供としては、「市民学校」や「めいりん講座」を実施しました。特に、「めいりん講座」では、毎回受講者にアンケートを行い、ニーズを積極的に取り入れました。

学習情報の提供としては、「生涯学習ガイドブック」を作成し、関係団体や全区長、市民に配布し、「人材活用事業」「わく湧くお届け講座」「めいりん講座」等の活用を啓発しました。

〔課題と今後の方向性〕

積極的にアンケートを実施し、ニーズにあった講座をプログラミングすることによって、受講者数が徐々に増えてはきていますが、新たな受講者の増加につながっていないのが現状です。

新たな参加の取り掛かりになるよう、大野市生涯学習フォーラムの内容をより魅力的なものにするためにアンケート調査も実施して充実させていきます。

② 少年教育推進事業

次代を担う少年の健全育成を図るために、子ども会を基盤とした小学生や、中学生ボランティアサークル「ジュニアリーダー」の活動を支援しました。

中学生ジュニアリーダーは、4中学校で54名の申し込みがあり、小学生参加の越前大野ふるさとかるた大会、子ども手づくり教室、チャレラン大会を手伝いました。

また、地区主催の夏まつりの協力や、台湾の中学生との交流会にも参加しました。

〔課題と今後の方向性〕

中学生ジュニアリーダーは、単年度の参加が多く、毎年継続して参加する生徒を確保することが課題となっています。

ジュニアリーダーとして、研修会や地域活動に参加し培ってきたボランティア精神を、高校、大学と継承し、地域のカへと発展するような仕組みづくりを検討する必要があります。

③ ふるさと大野今昔物語事業

大野市の歴史・伝統・文化を記録した写真等を収集・保存し貴重な財産として後世へ継承することを目的に平成24年度から実施しており、収集総数は4,889枚となりました。

平成26年度は、これらの写真等をパネルやタペストリーにして、結の故郷発祥祭に合わせ、まち中に展示したほか、多くのイベント会場で展示しました。

また、新たに写真をスクリーンに写しながら紹介する「むかし語り（スライド上映）」を実施し、かたりべ養成講座を開催しました。

〔課題と今後の方向性〕

高齢者サロンや福祉施設でのむかし語り、学校での郷土学習資料として利用するほか、まち中での展示を行い、結の心の醸成とまち中の活性化につながるよう有効活用を図っていきます。

今後、むかし語りの要望が増えることが予想されることから、かたりべ養成講座を継続開催し、市民による「かたりべ」を育成していきます。

④ 平成大野丸中学生派遣事業

本事業は、市制60周年を記念して実施したもので、先人の偉業を学ぶとともに、人と人とのつながりや縁(えにし)を強め、ふるさと大野を愛する心を育てるため、夏休みに5日間、市内の中学生30名を、本市から多くの先人が入植した新ひだか町と函館市へ派遣しました。

参加した生徒は、さまざまなことを学習する機会を得たことや、多くのことを体験したことにより、大きく成長しふるさと大野により一層の愛着が深まり豊かな人間性が育まれました。

また、事業の報告書を作成し、本年2月に開催された大野市生涯学習フォーラムで成果を発表しました。

〔課題と今後の方向性〕

市制60周年記念事業として実施したこの事業は、郷土愛を育む上で大変効果的

でした。今後も同様の事業を企画する場合、なるべく多くの児童生徒が参加できるように検討しながら、市制何周年等の特別な機会に実施していきたいと考えます。

⑤ 結の故郷・人づくり学習事業

幼児から高齢者まで、幅広い世代のニーズに応じた学習活動を通して、地域のリーダーを育成し、住民主体の地域づくりを推進しています。

平成26年度は、全9公民館で実施し、ほぼ計画通り実施することが出来ました。

なお、この事業は、公民館ごとに1事業となっていますが、この「点検・評価報告書」では、全公民館事業を合わせて1つの評価対象事業とし、9公民館の評価シートを合わせて作成しています。

〔課題と今後の方向性〕

趣味的な講座への参加者が増えているため、全体的には参加者が増加していますが、地域の課題を考えるような講座への参加者は減少傾向にあります。

中高老年世代の参加意欲は高いですが、固定化が見られます。若年層（特に青年層）の関心が低いので、この世代が興味を持ち参加してもらえるような講座等の企画や運営を検討していきます。

また、社会教育団体等と連携し、地域の問題意識を共有し、積極的に地域の課題解決に取り組めるような人材育成の講座を進めていく必要があります。

さらに、いつでも、だれでも、訪れたい公民館の環境づくりに努めていきます。

⑥ 子どもの読書活動推進事業

読書を通して乳幼児期の親子の関わりを深めるブックスタート事業は、受講後のアンケート結果を踏まえて開催時間を見直し、今年度は、5月と10月に開催しました。参加者に絵本の読み聞かせを行うとともに、家庭での読み聞かせの実践を呼びかけました。

また、幼稚園や保育園でのおはなし会、学校でのブックトークや、毎週土曜日の児童文学の朗読や絵本の読み聞かせ等を実施したほか、各園や学校に本の貸出を行うなど子どもの読書活動を啓発しました。

〔課題と今後の方向性〕

ブックスタート事業は、より受講率を高めるためにアンケートを実施し、内容の見直しを行いながら、乳幼児期の子どもとその保護者への働きかけを継続していきます。

子どもの読書活動は、継続的で組織的な働きかけが必要であることから、「読み

聞かせボランティア養成講座」の修了生や、個々に活動している「読み聞かせボランティア」と連携しながら、乳幼児期だけに止まらず、子どもたちがその成長に応じた本と出会うことができる環境づくりに取り組んでいきます。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H 2 6 目標	H 2 6 実績	H 2 7 目標
めいりん講座・市民学校開催数	30 講座	22 講座	30 講座
公民館講座・教室受講者数	23,000 人	24,428 人	25,000 人
図書館貸出冊数	137,500 冊	127,797 冊	140,000 冊
図書館利用者数	4,500 人	3,833 人	—
図書館来館者数	—	—	85,000 人
青年交流参加者人数	120 人	83 人	120 人
国際交流講座	7 回	10 回	15 回

平成26年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	生涯学習推進事業	含まれる事業数	7	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 心豊かな人づくり	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	一 年度 経過年数 一 年	終了 予定 年度	一 年度 事務 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他	
関連計画	-									

事業目的	対象	市民全体	意図	生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の情報並びに機会を提供し、生涯学習社会の機運を高める。
------	----	------	----	---

事業内容	市民の必要に応じていつでもどこでも自由に学ぶことができるように、学習機会の提供、学習情報の提供、学習相談の実施などを行う。 ・生涯学習のまちづくりを推進するため、大野市生涯学習推進会議を設置し運営する。 ・学習機会の提供のため年間を通じて講演型、体験型の講座を開催する。 ・身近な地域でのネットワークづくりやグループの自主運営を促進し、生涯学習活動の活性化を図るため援助及び助成を行う。 ・生涯学習の重要性を広く啓発するため、地域活動に積極的に参加する市民・団体の発表の場としてフォーラムを開催する。
------	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン
当初予算額	962	1,213	1,009	1,027	0.7%	状況・環境の変化
3月現計予算額	962	1,213	1,009		#DIV/0!	
決算額(執行済額)	705	779	472		#DIV/0!	科学技術の高度化、情報化、高学歴化や社会構造の変化、高齢化の進展や自由時間の増大などに伴って、高度化多様化する学習ニーズに対し、生涯学習を支援・促進する必要がある。
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					事業開始後の見直し状況
	その他特定財源					
一般財源	705	779	472		-	
国庫・県支出金名称						
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等

活動指標	講座開催数(市民学校・めいりん講座)	目標	36	42	30	20	達成状況	学習情報並びに機会提供
		実績	36	42	22		73.3%	
成果指標	講座参加者数(市民学校予定・めいりん講座)	目標	1,400	1,200	1,400	800	達成状況	実績の5%増
		実績	1,049	817	757		54.1%	

公共関与の必要性	「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」により市の連携協力が定められている。	
有効性	市民等のニーズとの一致	開催講座の各テーマに対し、興味を持った人や意欲のある人が聴講し、参加者数が徐々に増えてきている。受講者にアンケートを行い、意見を取り入れて市民のニーズに添えている。
	目的達成状況	予定していた事業については、ほぼ予定通り実施できている。市民それぞれの「学び」の意欲に対し応えることができた。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	市民の学習意欲は多種多様であるため、縮小は不可能である。類似事業との統合は難しいが、共催などを検討する余地はある。
	事業費削減の検討	他の課の事業や公民館、社会教育団体の研修・啓発事業と共催し、コスト削減に取り組む余地はある。しかし、謝礼金については、優秀な講師の確保や参加者確保の観点からコスト削減は難しい。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	講師を市民や団体に依頼することや開催の方法を検討することにより市民協働の余地はある。
総合評価	現状分析及び残された課題	生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の情報並びに機会を提供し、生涯学習社会の機運を高めるために効果的で必要な事業であるが、フォーラムや開催講座の参加者数は、多いとは言えない。提供する情報についても、より内容を充実させ、ライフステージに応じた最適な学習情報の提供方法を研究していく必要がある。

一次評価	事業の評価	いずれも目標どおり開催できた。生涯学習フォーラムにおいては、前年を70名ほど上回る参加者があった。			方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	今後は、教育方針における目標を講座開催回数でなく受講者数とするとともに、講座内容、回数を精査し、魅力ある講座の開催に努める。				見直し額	
		評価	B				

二次評価	事業の評価	フォーラムや講座の開催などにより生涯学習社会の機運を高めることができたが、参加者数が目標に届かなかった。			方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の情報並びに機会を提供し、生涯学習社会の機運を高める必要がある。				見直し額	
		評価	B				

整理番号 257

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	少年教育推進事業	含まれる事業数	4	所属	部(局) 教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	1年度	終了予定年度	1年度
関連計画	心豊かな人づくり	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他	事務区分		事務区分			

事業目的	対象	意図
	子ども会や校内ボランティアサークルを基盤とした市内全小中学生及び高校生	少年の健全育成を図るとともに将来の大野市を担うジュニアリーダーを養成する。

事業内容	次代を担う子ども達の健全育成を図るため、子ども会を基盤とした集団活動の奨励と中学生及び高校生リーダーの育成に努める。また、子ども達が自由時間を有効活用できるよう、体験学習等に参加する支援を行い、心身ともに豊かな人間形成を目指す。 ・子ども会事業の促進 ・チャレラン大会、手づくり教室、越前大野ふるさとかるた大会（地区予選、決勝）の開催 ・ジュニアリーダー育成研修会（宿泊研修含む）の実施
------	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	612	1,288	414	769	-37.4%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	612	1,288	414		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	307	1,022	194		#DIV/0!	地域力が低下する今の時代において、学校教育以外での地域における異年齢集団での交流(子ども会等)の必要性が増してきている。それに寄与するジュニアリーダーの育成や大会や教室等自体の開催は重要である。		
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況		
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源	44	33	0				
一般財源	263	989	194			平成25年度は平成26年度実施の「平成大野丸中学生派遣事業」の事前調査の経費が計上されているが、平成26年度はその事業を単独で立ち上げ計上している。		
国庫・県支出金名称	-							
その他特定財源名称	ふるさとかるた売却代					指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	行事の回数	目標	4	4	4	4	達成状況	行事を開催し少年教育推進の機会を設ける
		実績	4	6	6		150.0%	
成果指標	行事の参加人数	目標	250	250	250	250	達成状況	少子化の中、行事に参加する人数の現状維持を目指す
		実績	241	299	215		86.0%	

公共関与の必要性	社会教育法に基づき市教育委員会で行うこととされている事業である。	
有効性	市民等のニーズとの一致	育成者の意見、またジュニアリーダーをはじめとした子ども達の意見を取り入れながら事業を展開している。
	目的達成状況	実施行事については計画どおり実施でき成果を得られている。ジュニアリーダーについても研修会等の実施や各公民館を中心とした地域活動への参加が行われている。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	目的の達成のためには大会や教室の内容やジュニアリーダーの研修会の内容などを精査していく必要があるが、回数については参加する子ども達の自由時間等を考慮すると拡大は困難である。また、現状においては他事業との統合は検討できない。
	事業費削減の検討	事業費については、目標とする事業を行うための必要最小限の予算で行っており、削減の余地はない。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	当事業は家庭、学校、行政が連携して進めていく事業であり、民間委託を検討する場合、市内に受け手がなく、現在の実施方法が望ましいと考える。現在も子ども会事業の促進については大野市子ども会育成連合会と連携しながら行っている。
総合評価	現状分析及び残された課題	ジュニアリーダーに関しては、毎年継続してジュニアリーダーに参加する中学生を確保すること、また、研修会や地域活動に参加してきた中学生を、今後の継続的な活動につなげ、いかに地域の力にしていかが課題である。

一次評価	事業の評価	ジュニアリーダーの活躍が求められている中、着実に成果が現れている。ジュニアリーダーの育成については、子ども会育成行事や夏祭り等地区行事の運営補助として参加するジュニアリーダーが多く見られるとともに、台湾の中学生との交流を行うなど事業の効果が見られた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	子どもの数が減少していくことも念頭に入れながら、事業の推進に取り組んでいく必要がある。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額		千円

二次評価	事業の評価	各種行事やジュニアリーダーの研修会等の実施により青少年の健全育成を図ることができた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	地域力の向上を図るために各地区の子供会育成会との連携に取り組まれたい。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額		千円

整理番号 261

会計区分
 一般会計
 特別会計
 企業会計

平成26年度事務事業評価シート

事業名	ふるさと大野昔物語事業		含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興				
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 心豊かな人づくり				事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	24年度	経過年数	28年度	終了予定年度	3年	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	-														

事業目的	対象	市民全体	意図	大野市に関連する昔の写真を収集する。
------	----	------	----	--------------------

事業内容	大野市の歴史・伝統・文化を記録した写真等を収集・保存し、貴重な財産として後世へ継承する。 ・収集した写真等については様々な機会をとらえて展示を行うとともに、大野市が行う各種事業で活用する。 ・市内小中学校の郷土学習の資料、あるいは社会福祉施設や地区サロンでの回想法の手段として提供する。 ・収集した写真等を映像化し、小中学校や社会福祉施設、地区のサロン等で「むかし語り」を行い、大野の歴史、文化を語り継ぐ。 ・市民の手による「むかし語り」を行うため、「かたりべ養成講座」を開催する。			
------	---	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	3,000	2,912	3,171	2,702	-4.0%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	3,000	2,912	3,171		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	2,528	2,676	3,002		#DIV/0!			
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債					事業開始後の見直し状況		
	その他特定財源							
一般財源	2,528	2,676	3,002			写真を収集して展示するだけでなく、写真が撮影された時代背景や地区の歴史を説明しながら紹介する「むかし語り」を実施した。「むかし語り」を行う市民を育成する「かたりべ養成講座」を開催した。		
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	写真提供者数	目標	100	80	50	10	達成状況	写真提供者数
		実績	98	85	19		38.0%	
成果指標	収集写真数	目標	1,500	2,000	500	100	達成状況	データ化した写真の数
		実績	2,043	2,319	527		106.0%	

公共関与の必要性	個人が所有している大野市の歴史や生活の様子が記録された写真等を後世に継承するため、市の関与が必要である。			
有効性	市民等のニーズとの一致	「市長と語る会」での市民の意見が発端となった事業である。「わくわくお届け講座」における「むかし語り」のアンケート結果によると、「子育て世代はもちろん、子どもたちには是非この講座を受けさせてあげてほしいです」といった意見が寄せられている。		
	目的達成状況	写真収集枚数は目標を上回るとともに、30回にわたって写真展示をすることができた。「むかし語り」は「わくわくお届け講座」において24回実施し、「大野市制60周年記念式典」や「生涯学習フォーラム」においても実施した。「かたりべ養成講座」を3回開催して、かたりべ育成に努めた。		
効率性	事業内容、手法、統合の検討	さまざまな機会を捉えた写真展を行うことで収集写真等を活用する。また「むかし語り」では、番組内容や申し込み方法を記載した利用案内パンフレットを作成して社会福祉施設に配布するなどして普及を図っている。「かたりべ養成講座」を継続して開催することで、市民がかたりべとなって「むかし語り」を実施できるようにする。		
	事業費削減の検討	事業費については、目標とする事業を行うための必要最小限の予算で行っており、削減の余地はない。		
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	大野市の財産として収集、データ管理、活用していく必要があるため、民間委託はふさわしくない。		
総合評価	現状分析及び残された課題	大野市の歴史や伝統、文化等を記録した写真等を収集・保存し、貴重な財産として後世に残すことができる。収集・保存した写真等については各種事業で展示するほか、市内小中学校の郷土学習の資料となる。「むかし語り」は、地区サロンや福祉施設での回想法の手段として提供できるなど幅広い活用が可能で、効果の高い事業である。		

一次評価	事業の評価	まちなか展示を行うとともに、収集した写真を市のイベント会場等で展示したほか、写真をスクリーンに写しながら紹介するむかし語りを行った。			方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	市民によるかたりべを育成し、活用できるように努める。				見直し額	千円
		評価	A				

二次評価	事業の評価	収集した貴重な写真により大野市の歴史・伝統・文化を継承することができた。			方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	写真の「むかし語り」ができるかたりべの養成が必要である。				見直し額	千円
		評価	A				

整理番号 267

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	平成大野丸中学生派遣事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興			
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	実行予算	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	26年度	終了予定年度	26年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	心豊かな人づくり							26年度 経過年数 一年					

事業目的	対象	市内中学生	意図	先人の偉業や歴史を学び、北海道の雄大さを体験することで大野人の育成を図り、ふるさと大野への愛着を深める。
------	----	-------	----	--

事業内容	大野市の歴史上「結」でつながった縁の地である北海道新ひだか町と函館市を巡り、先人の偉業や歴史を学び、北海道の雄大さを体験することにより、大野市の教育理念にある「優しく、賢く、たくましい大野人」を育成する。 ・市制60周年記念事業として実施 ・8月18日(月)～22日(金)に実施(4泊5日 船中1泊)
------	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン
当初予算額			5,900		#DIV/0!	状況・環境の変化
3月現計予算額			5,300		#DIV/0!	
決算額(執行済額)			5,183		#DIV/0!	
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源			1,685		
一般財源			3,498			単年度事業 継続なし
国庫・県支出金名称						
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等
活動指標	参加者数	目標		30	達成状況	バスで移動できる人数(随行者含)
		実績		30	100.0%	
成果指標	報告会の参加者	目標		300	達成状況	生涯学習フォーラムで発表(報告会)
		実績		240	80.0%	

公共関与の必要性	市制60周年の記念事業として実施	
有効性	市民等のニーズとの一致	定員30名のところ、定員を上回る申込みがあり、子どものニーズが高かった。また、報告会を聞いた市民から、「このような体験をまた子どもたちにさせたい」という声が多く聞かれた。
	目的達成状況	全ての参加生徒が、大変有意義な視察研修と答え、報告会でも成長の跡がうかがえた。目的は達成できた。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	市制60周年の記念事業として実施したため、多事業との統合はない。
	事業費削減の検討	市制60周年の記念事業として実施したため、継続性はない。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	過去に青年会議所が類似の事業を実施しており、民間委託の可能性は十分に考えられる。
総合評価	現状分析及び残された課題	全ての参加生徒が、大変有意義な視察研修と答え、報告会でも成長の跡がうかがえる大変有意義な事業であったと考えるが参加者30名と限られており、多くの生徒への平等性を考えると、市制何周年等の特別な機会での実施が望ましい。

一次評価	事業の評価	大野市の歴史上「結」でつながった縁の地である北海道新ひだか町と函館市で先人の偉業や歴史を学び、北海道の雄大さを体験することで教育理念にある「優しく、賢く、たくましい大野人」を育成するとともに、見分を広め、ふるさと大野への愛着を深めることができた。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	今回は、市制60周年記念事業であったが、同様の事業を今後も実施する場合、参加者の機会均等など十分な検討が必要。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
			千円	<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了
			評価点	A	

二次評価	事業の評価	先人の偉業や歴史を学び、北海道の雄大さを体験することで大野人の育成を図り、ふるさと大野への愛着を深めることができた。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	開催する価値がある事業である。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
			千円	<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了
			評価点	A	

整理番号

平成26年度事務事業評価シート

会計区分
 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	結の故郷・人づくり学習事業（全公民館総括）	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	公民館		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 心豊かな人づくり			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	19年度	経過年数	—	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画												

事業目的	対象	各地区住民	意図	人づくりを通して地域づくりを推進する。
------	----	-------	----	---------------------

事業内容	幼児から高齢者まで、幅広い世代のニーズに応じた学習活動を通して、地域のリーダーを育成し、住民主体の地域づくりを行う。 ・一般講座、家庭教育学級、少年教育学級、青年教室、高齢者教室など ・各種地区団体事業の連絡、調整及び支援			
------	---	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (目標)	平均伸び率	行政改革推進プラン	
当初予算額	6,330	7,020	7,450	7,321	4.6%	状況・環境の変化	
3月現計予算額	6,330	7,025	7,441		#DIV/0!		
決算額(執行済額)	5,521	6,161	6,245		#DIV/0!	住民の生活形態の変化や学習ニーズの多様化など、社会的背景や市民意識の変化により、講座受講者数は減少傾向にあり、地域への帰属意識や地域づくりへの関心が薄らいでいる。	
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債					事業開始後の見直し状況	
	その他特定財源						
	一般財源	5,521	6,161	6,245			
国庫・県支出金名称							
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等	
活動指標	目標	講座・学級開設数	290	1,000	1,000	達成状況	地区住民が社会教育に触れることができる機会として設定
	実績		294	1,105	1,282	128.2%	
成果指標	目標	受講者数	17,200	17,300	17,400	達成状況	公民館講座数・教室受講目標者数を基礎に設定
	実績		17,196	22,424	24,428	140.4%	

公共関与の必要性	本事業は、社会教育法に規定する公民館の目的と合致した事業であることから市が関与する必要がある。			
有効性	市民等のニーズとの一致	講座等による学習の場、地区内各種団体との連携による活動の場、地区住民の交流の場、コミュニティづくりの場として、住民のニーズに合致している。		
	目的達成状況	学習者の満足度は高く、ニーズに合致しているが、学習者の固定化が見られる。		
効率性	事業内容、手法、統合の検討	公民館事業としては現状の規模が妥当であり、今後も広く住民が参加できるいくつかの講座、学級を実施していく予定であり、事業の縮小は困難。人づくりはすぐに効果が現れるものではないので、効率性だけで統合を検討することはできない。		
	事業費削減の検討	本事業はソフト事業であるため、経費をできるだけ抑えた実施を検討しなければならないが、各学習内容を充実させるためには、外部講師の招へいが必要であり、削減は好ましくない。		
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	民間委託については、地域に密着したNPO法人等であれば可能であるが、現段階では難しい。市民協働については、地区内の各種団体と協働して事業を遂行しているところである。		
総合評価	現状分析及び残された課題	・ 趣味的な講座への参加者はある程度あるが、地域の課題を考えるような学習の場に参加者を集めるのが難しいので、地域全体との連携を深め、地域の問題意識を共有し、積極的に地域の課題解決に取り組めるような人材育成の講座を進めていく必要がある。 ・ 中高老年世代の参加意欲は高いように感じられるが、若年層(特に青年層)の関心は低く、参加者数も少ない。この世代が興味を持ち参加してもらえるような講座等の企画を検討していく必要がある。		

一次評価	事業の評価	ニーズに合致した事業実施により、地域づくりや地域の活性化につなげることができた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	趣味的な講座など参加者の固定化を防ぐためにも、効果的な事業に取り組む必要がある		見直し額	千円
			評価	B	

二次評価	事業の評価	地域団体と連携して幅広い世代のニーズに応じた講座等を開催することができ参加者も増加した。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	地域の人材育成に取り組む必要がある。特に参加が少ない青年層のニーズに応じた工夫が必要である。		見直し額	千円
			評価	A	

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名 子どもの読書活動推進事業 含まれる事業数 1 所属 部(局) 教育委員会 課(室) 生涯学習課 グループ 図書館

総合計画 人が元気 産業が元気 自然が元気 行財政改革 事業区分 国・県 実行予算 18年度 終了予定年度 1年度 事務区分 自治事務 法定受託事務 その他

関連計画 大野市子どもの読書活動推進計画 事業区分 市単独 補助金 その他 事業開始年度 経過年数 8年

事業目的 対象 意図
 乳幼児・児童・生徒・保護者・指導者 基本図書を充実させ、子どもの発達段階に応じた図書を推奨する。

事業内容 長年読み継がれてきた基本図書を中心とした蔵書を整備し、それらを用いた事業を実施する。
 ・ブックスタート事業において、読み聞かせの体験とともに乳児期の親子のふれあいの重要性と、子どもの発達とメディアとの関係について保護者に伝える。前期(5・6月)と後期(10・11月)に実施する。
 ・子ども読書活動推進講演会を開催する。

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン
当初予算額	1,037	827	931	1,021	-1.8%	状況・環境の変化
3月現計予算額	1,037	827	931	#DIV/0!		
決算額(執行済額)	1,015	827	910	#DIV/0!		メディアと関わりを持つ子どもの低年齢化と多様化によって、子どもの読書環境に大きな影響がみられる。大野市子ども読書活動推進計画の「ノーテレビ・ノーゲームデー」を推奨する方策として、乳児期からの読書を介した親子のふれあいの重要性を直接伝えなければならない。
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
一般財源	1,015	827	910			ブックスタート事業の受講率を高めるため、開催回数の増加や休日にも実施したが、あまり効果がなかった。改善に向けて開催時間や曜日を変更し、他の事業と関連づけて実施をした。また、事業開催後のアンケート調査については改善を図った。
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等
その他特定財源名称						
活動指標	ブックスタート開催回数	目標 20	24	24	14	達成状況 前期(5・6月)と後期(10・11月)にそれぞれ7回実施
		実績 21	24	14		58.3%
成果指標	参加者(親子一組)	目標 223	163	154	161	達成状況 出生数の70%
		実績 176	158	161		104.5%

公共関与の必要性 読書は子どもの心の成長を助けることから、質の高い本を子どもたちに提供しなければならない。しかし、個人では多種多様で多量の図書から選書することは容易でない。そのため公共図書館が中心となり、図書を収集し提供する。また、講座や講演会の開催については、市の取り組みとして体系的に推進する必要がある。

有効性 市民等のニーズとの一致 近年「昔話などを語り聞かせる」ことが発達障害を持つ子どもにも有効的であるとの見解があるなど、子どもの発達における読書活動の重要性が注目されている。また、利用者だけでなく、教育機関等から子どもの本に関する問い合わせが増加していることから、事業の目的とニーズが一致している。

目的達成状況 ブックスタート事業において、乳児の保護者と1対1で向き合うことによって、本を選ぶことの意義やメディアによる弊害の大きさを直接伝えている。その後、0.1.2歳児対象のわらべうたの会での子ども様子を実際に見ることにより、保護者は読み聞かせなどの大切さを実感している。このことはアンケート結果でも示されている。

事業内容、手法、統合の検討 乳児と保護者を対象としたブックスタート事業、わらべうたの会から始まって、絵本の読み聞かせ会、児童文学の読み聞かせ会、おはなし会へと、子どもたちの発達に応じた事業内容へと展開しながら、良い読書環境をつくり、読み聞かせなどを実践することを伝える事業を展開し、拡大していく必要がある。

効率性 事業費削減の検討 ブックスタート事業に関しては、出生数にあわせて物品を購入するため、その費用は増減があるが、図書の整備や講演会を含む事業全体としては削減の余地はない。

民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性 ブックスタート事業は研鑽を重ねたボランティアスタッフの協力を得ており、継続的に実施していくために、今後も市民協働を推進していく。

総合評価 現状分析及び残された課題 子どもの読書活動は、継続的、組織的な取り組みが必要であり、周囲の大人の意識と理解が重要である。図書館の様々な事業を推進するうえで、確かな知識を持ったボランティアの育成を継続し、確保する必要がある。すでに個々で活動している「読み聞かせボランティア」とも連携をしながら、子どもの読書環境を整備していくことが大切である。

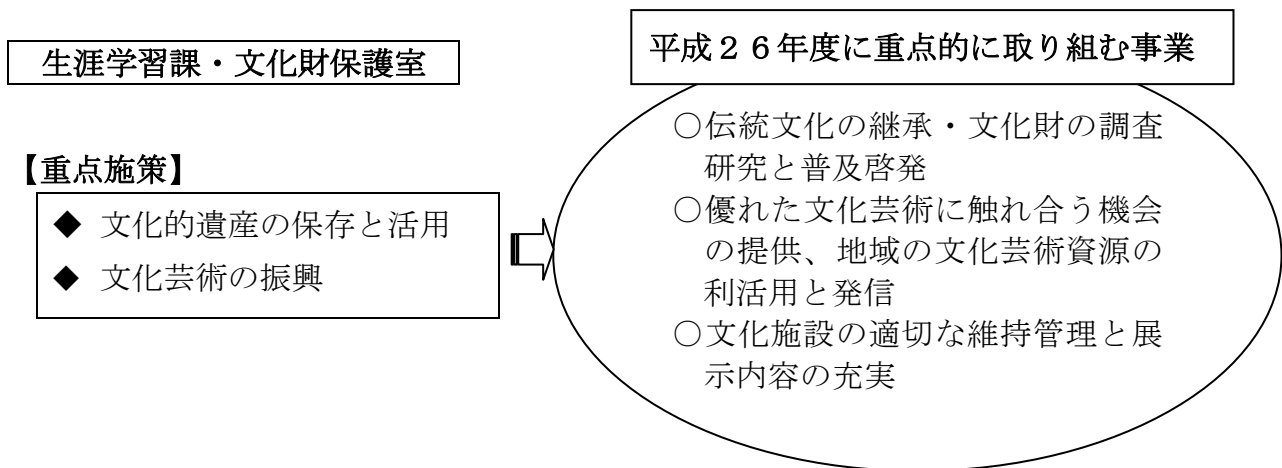
一次評価 事業の評価 図書館で実施しているブックスタート事業について、内容等が広く周知されていない。情報発信を効率よく行い、図書館利用につなげていくことが必要である。 方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了

改善方針 大野市子ども読書活動推進計画に基づく取り組み状況等を、図書館運営協議会で報告を行い、事業の推進方策等について協議を行い、意見聴取をする必要がある。 評価 B 見直し額 千円

二次評価 事業の評価 ブックスタート事業が広く周知されなかったが、子どもの読書活動の参加者は増加した。 方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了

改善方針 子どもの読書活動推進計画に基づき、図書を充実し読書活動の参加者の増加を図る必要がある。 評価 B 見直し額 千円

イ 豊かな心を育てる文化力の育成



① 市美術展開催事業

美術を通じて人と人が結ばれる「結の故郷越前おおの」にふさわしい美術展を目指して「美術が人と人を結ぶ『人結美（ひとむすび）』」をキーワードとし、第35回目の大野市美術展を開催しました。

市民だけでなく、県内在住者を対象にレベルの高い美術展を目指してきましたが、市外の出品者が増え、市外からの来場者も多くなり、その成果が現れつつあります。

また、展示会場では観賞用の椅子を設け、ゆっくりと作品と向き合い、語りあえる場を設定し、より親しみやすく居心地の良い雰囲気づくりや、出品作品の部門ごとに「人結美トーク」を行い、魅力アップに努めました。

〔課題と今後の方向性〕

今回で35回を数える市美展ですが、第30回以降、市外からの出品が増えて作品全体のレベルも上がっており、今後、県美展に次ぐ美術展としての位置づけを目指していきたいと考えています。

また、デジタルカメラによる加工写真、デザイン・造形作品など、現在の5部門では対応に苦慮する作品も出品されているため、今後は現代アートも視野に入れ、学生や若い年代層の出品を見込んだ新たな部門を設けることも検討していきます。

② 文化発信事業

この事業は、2年サイクルの事業で、1年目は作品の募集と審査、表彰、2年目は高札による市街地での展示と作品集の発行を行っています。

平成26年度は、上位作品500点を、6月15日から9月28日まで街中5箇所で開催し、作品集を1,000部発行しました。

〔課題と今後の方向性〕

今回のテーマ「里」の応募数は目標数に及ばなかったため、応募しやすいテーマの設定、全国に向けての効果的な情報発信など、応募数の増加に向けて課題を検証していきます。

また、優秀作品については、高札にして市街地に一定期間展示するものの、いまひとつ市民に浸透していけない感があります。そのため、上位入賞作品について常設展示してはどうかという意見もあり、展示場所を含め検討したいと考えています。

さらに、作品集も在庫を抱えないように積極的にPRし、販売促進に努めていきます。

③ 地域文化振興事業

平成23年度に開催した「市民所有の絵画展－光の連鎖 大野ゆかりの画家たち－」を基盤に、新たな絵画の掘り起こしと大野市の状況を広く市外に発信するため、結の故郷発祥祭事業として、瑛九、池田満寿夫、ピカソなど現代アート作品約100点を展示し、「市民所有の絵画展－現代アートの礎－」を開催しました。

マスコミ向け内覧会等、積極的に広報した結果、市外からも多くの来場がありました。

〔課題と今後の方向性〕

市民が絵画を多く所有しており、それらはたいへん価値のあるものだという認識は十分浸透しました。今後、個人の所有であるこれらの活用を図るとともに、市外流出を防ぐための方策を検討する必要があります。

④ 大野市総合文化祭事業

日頃の文化活動の発表の場を提供し、文化活動の底辺を拡大することによって文化の普及向上を図ることを目的に、市民あがての文化の祭典を開催しています。

平成26年度は、初めてポスターを作製し、より広く周知に努めました。

また展示会場では、新たな企画として大野高校や奥越明成高校の書道部や美術部によるコーナーを設けるとともに、より観賞しやすいように展示スペースを変更しました。

さらに今回から展示作品の目録を作成し、来訪者に文化祭がより身近なものに感じてもらえるよう努めました。

〔課題と今後の方向性〕

文化団体の高齢化が進んでおり、文化祭への出演者の固定化がみられます。市民の文化芸術活動の成果を発表する機会ととらえ、より積極的に新たな出品者（学校等）、出演団体（者）の掘り起こしを行うとともに、より若年層に文化祭を身近に感じてもらえるよう工夫していきます。

⑤文化公演事業

平成26年度には、大野市出身の尾野玲子コンサート、福井映画センター等と共催した映画会を2回、こども芸術劇場として劇団芸優座公演「一休さん」を実施しました。

また、市民団体の自主的な文化活動（公演、展示会）を行う11団体の活動に対して、補助金を交付しました。

〔課題と今後の方向性〕

公演の鑑賞においては、無料のものや安価な料金設定も期待されることから、県や財団等による文化公演事業に対する補助制度の情報収集に努め、公演の開催に努めていきます。

また、市民が自ら企画・実施する公演等の文化芸術活動が盛り上がるように、補助事業の趣旨を啓発していきます。

⑥埋蔵文化財発掘調査事業

市内には縄文時代から近世まで埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が約160か所、確認されています。これらの遺跡を開発行為等による破壊を防ぐため調査・研究を実施しています。

平成25年度は開発行為による2件の試掘調査をしましたが、平成26年度は調査の対象となる届出がありませんでした。また、埋蔵文化財包蔵地内での文化財保護法第93条（土木工事等のための発掘に関する届出及び指示）に基づく埋蔵文化財発掘届出書が1件ありました。

このほかに、武家屋敷旧田村家の復元工事に伴い、礎石の確認調査をしました。

〔課題と今後の方向性〕

埋蔵文化財（遺跡）が無断で破壊されないよう取り組みます。今後は緊急に発掘調査が必要となった場合、迅速に対応できるような体制づくりを検討する必要があります。

またこれまでの発掘調査で出土した遺物の保存と活用を検討し、博物館施設をはじめさまざまな場所で公開できるよう調査・研究に取り組んでいきます。

埋蔵文化財ではありませんが、和泉地区の化石の保全に取り組み、平成26年度に整備した和泉郷土資料館を活用して、化石が伝える太古の生き物と地球の様子に市民が関心を持つよう情報発信をしていきます。

⑦ 歴史博物館特別展開催事業

歴史博物館では、大野市の歴史や文化をテーマに不定期で特別展を開催しています。平成26年度は、旧大野郡出身と伝えられる世襲面打家「大野出目家」を取り上げ、能面展と講演会を開催しました。

彦根城博物館所蔵の貴重な能面など多数の資料を借り受け、大野市広報のほか報道機関によって広く周知されたことにより、市内外から能面に関心が高い方々の観覧がありました。ただテーマが芸術の中でも特異な分野だったので、一般市民の関心が低く、入館者数が目標に達しませんでした。

[課題と今後の方向性]

今後、特別展を企画するときには、市民の興味や関心に密着したテーマを取り上げることや、期間中に市民参加あるいは体験型のイベントを取り入れることなどを検討します。さらに、特別展終了後に展示資料やパネルを活用して、学校や公民館で巡回展を行い、歴史博物館の認知度を高めていきます。

⑧ イトヨ保護啓発推進事業

本願清水イトヨの里は、市内の小中学校をはじめ高校や大学が、イトヨを通じた水環境の学習・研究に活用されています。また、大野イトヨの会をはじめ、市民団体との共催で企画展を4回開催しました。日頃はイトヨに関心の低い市民も企画展との関連で来館し、イトヨの保護や、環境保全への啓発につながっています。

10月に外来魚（コクチバス）の生存を確認したため、本願清水への生物の放流を禁止する看板を設置して環境保護の呼びかけをしました。また、2月に開催した公開講座では、特定外来生物の問題を取り上げたところ、県内の自然保護活動関係者をはじめ多くの参加がありました。

[課題と今後の方向性]

大野市の湧水文化とイトヨの生息を守るとともに、外来生物の放流問題に継続して取り組むために、関係機関との連携を図ります。

企画展、公開講座の開催や、名水マラソン参加者への無料入館券配布など、市民が大野市の魚イトヨの保護について関心を高め、入館者数の増加につながる工夫をしていきます。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H 2 6 目標	H 2 6 実績	H 2 7 目標
市指定文化財件数	113 件	108 件	115 件
市が支援する文化公演などの回数	16 回	15 回	16 回
大野市美術展の来場者数	2,000 人	1,704 人	2,000 人
博物館入館者数	45,500 人	69,231 人	70,000 人
イトヨの里の入館者数	12,000 人	10,314 人	12,000 人

整理番号 268

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	市美術展開催事業	含まれる事業数	1	所属	部(局) 教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興			
総会計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	実行予算	<input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	S55年度	経過年数	終了予定年度	— 年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	—											

事業目的	対象	意図
	市民及び県内の芸術愛好家	創作活動に励む市民や県内愛好家の創作活動の活性化を図ると共に、芸術に対する関心と理解を高める。

事業内容	<p>県内に在住する高校生以上の人から作品を募集し、35回目となる美術展を開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期 8月27日(水)～8月31日(日) ・会場 まちなか交流センター ・出品数 295点(洋画、日本画、彫刻・工芸、書道、写真)
------	---

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	770	790	850	831	2.4%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	770	790	850		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	674	725	823		#DIV/0!	市民だけでなく県内在住者を対象に募集することにより、レベルの高い美術展を目指してきたが、その成果が現れつつあり、県美展出品者が本展にも出品する状況となっている。		
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債					事業開始後の見直し状況		
	その他特定財源	295	273	279		来場者の増加を図るために、平成23年度から会場を、有終会館からまちなか交流センターに移し、平成25年度からは会期を3日間から5日間へと延長した。		
一般財源	379	452	544					
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	出品点数	目標	300	300	300	300	達成状況	一定数の出品者を保つことが活性化された美術展の一因と考える。
		実績	311	285	295		98.3%	
成果指標	来場者数	目標	1,200	2,000	2,000	2,000	達成状況	来場者が増えることにより芸術に対する関心と理解が高まると考える。
		実績	1,380	1,822	1,704		85.2%	

公共関与の必要性	講演会やコンサートは市民による企画運営が可能であるが、市内外を対象とする総合的な美術展は行政が行う必要があると考える。本市の文化レベルを測れる機会と捉えることもでき、行政主導による実施が妥当である。	
有効性	市民等のニーズとの一致	市民にとって定着した美術展であり、文化祭に出品した後や公民館講座の受講後に市美展を目指して創作を続ける人も多い。様々なジャンルの作品を身近な場所で、無料で鑑賞できる数少ない場でもある。
	目的達成状況	美術が人と人を結ぶ「人・結・美(ひとむすび)」をキーワードとして展開しており、結の故郷に相応しい美術展を目指している。市外からの出品者から好評を得ている。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	鑑賞する立場から創作する立場へ導けるような内容を検討したい。他事業との統合は難しいが、文化的事業との共存、効率化を図ることについては検討の余地がある。
	事業費削減の検討	結とびあから220枚の有孔ボードを運搬設置するのに委託費がかさんでいる。会場としているまちなか交流センターに、他事業でも利用できる設置容易なシステムパネルがあれば、展示作業の効率化も計れ、事業費削減にもつながる。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	事業の主管となっている大野市美術展運営委員会と協働の体制で開催している。
総合評価	現状分析及び残された課題	他市においても充実した美術展の開催に力を入れており、本美術展への出品を促すためには、他市との差別化を図る必要がある。来場者数が伸び悩んでいるため、中学生、高校生にも呼びかけるなどし、目標値の達成を目指す必要があると考える。

一次評価	事業の評価	市民の創作活動の活性化に寄与しており、来場者からも好評である。運営も工夫して実施している事業であった。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方針	周知方法の工夫を行い、より多くの作品が出品される環境づくりが大切。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	千円	

二次評価	事業の評価	創作活動に励む市民や県内愛好家の創作活動の活性化を図ると共に、芸術に対する関心と理解を高めた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方針	本美術展への出品を促すために他市との差別化を図るとともに、中学生、高校生への呼びかけも検討する必要がある。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	千円	

整理番号 270

平成26年度事務事業評価シート

会計区分
 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	文化発信事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興			
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 豊かな心を育てる文化力の育成			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独		<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	10年度	終了年度	16年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	-												

事業目的	対象	市民全体	意図	大野市の大切な財産である自然や豊かな水を守り育てる心を醸成するとともに、作品の創作、鑑賞を通じて文化芸術の振興を図り、大野市から文化を発信する。								
------	----	------	----	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業内容	第8回越前大野感性はがき展（テーマ「里」）を実施する。（2年目） ・上位作品500点をまちなか5か所に展示 ・作品集1,000部発行										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度 (実績)	平均伸び率	行政改革推進プラン	
当初予算額	905	2,000	1,600	2,000	16.5%	状況・環境の変化	
3月現計予算額	905	2,000	1,600		#DIV/0!		
決算額(執行済額)	862	2,000	1,443		#DIV/0!	環境保全や自然保護が重要視されている中、自然をテーマにした作品の募集は社会情勢に適していると思われ、地方からの発信という意味で価値あるものとする。	
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況	
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源		19	127			
一般財源	862	1,981	1,316				
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等	
その他特定財源名称							
活動指標	作品応募数	目標	8,000	-	5,131	達成状況	市民に定着しつつある事業で市民の関心度として応募総数を指標とする
		実績	5,131	-		%	
成果指標	作品集売却数	目標	150	150	150	達成状況	作品集の販売により事業の周知を図ることができる
		実績	296	37	265	176.7%	

公共関与の必要性	自然に恵まれた大野市が、市の特色や魅力を継承し発展させ、国内外に発信していく必要があるため、事業の実施は必要と考える。	
有効性	市民等のニーズとの一致	市内からの応募が多く、市民に定着してきている。また、市街地への高札での展示、作品集の発刊を楽しみにしている市民も多い。
	目的達成状況	第8回展は「里」をテーマに行った。本年度は入選作品のまちなか展示、屋内展示会を開催し、作品集を発行した。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	委託している実行委員会の体制、運営方法から、現在の規模が妥当と思われる。
	事業費削減の検討	委託料について、予算の組み方や執行状況を精査しているが、これ以上の削減は難しいと思われる。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	市民団体である「越前大野感性はがき展実行委員会」に委託しており、既に市民協働に近い形で実施している。
総合評価	現状分析及び残された課題	全国に向けての効果的な情報発信、上位入賞作品の常設展示を検討する必要がある。

一次評価	事業の評価	本年度は優秀作品展示を行う年であり、入選作品のまちなか展示、屋内展示会を開催し、作品集を発行した。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	より効果のある展示方法及び情報発信方法の検討。		見直し額	千円
			評点	B	

二次評価	事業の評価	「里」をテーマにした入選作品をまちなかや屋内で展示会を開催し、文化を発信することができた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	自然や豊かな水に感謝するなど、本市ならではのテーマの検討が必要である。		見直し額	千円
			評点	B	

整理番号 272

会計区分
 一般会計
 特別会計
 企業会計

平成26年度事務事業評価シート

事業名	地域文化振興事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興	
総会計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	23年度	終了予定年度	—	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	—										

対象	市民及び市外県外者	意図	楽しさや感動、安らぎや喜びをもたらすことにより、豊かな人間性や創造性を育み、地域文化の活性化を図る。
----	-----------	----	--

事業内容	<p>平成23年度に開催した「市民所有の絵画展-光の連鎖 大野ゆかりの画家たち-」を基盤に、新たな絵画の掘り起こしと大野市の状況を広く市外に発信するため、結の故郷発祥祭事業として実行委員会を立ち上げ、「人を結び、時を結び、地域を結び」に関連付けて開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会名 市民所有の絵画展 -現代アートの礎- ・ 会場 越前おおのまちなか交流センター ・ 会期 10月11日(土)～26日(日) ・ 来場者 4,498人 										
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	850	766	2,660	300	-242.1%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	850	766	2,660		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	469	493	2,091		#DIV/0!	「地域力」「文化力」という言葉がうたわれる中、地域の持つ文化財産を活用し、地域に活力を生み出すことが重要視されており、本市においても、市の特性を生かした戦略を推進している。		
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況 市民の所有物を用いての企画展を、絵画、お宝、レコードなど趣向を変えて開催してきた。市民所有の絵画については、市外県外にも十分通用する内容のため、発祥祭に絡め規模を大きくして開催した。		
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
一般財源	469	493	2,091			指標設定の考え方、積算根拠等		
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称								
活動指標	開催日数	目標	10	10	16	0	達成状況	ある程度の日数を開催することで事業の周知ができる。
		実績	10	10	16			100.0%
成果指標	来場者数	目標	2,000	2,000	5,000	0	達成状況	来場者が増えることにより地域文化が活性化すると考える。
		実績	1,817	2,649	4,498			90.0%

公共関与の必要性	市民の所有物を借用して展示するため、信頼関係が不可欠であるが、行政が行うことにより安心して貸し出すと思われる。また、所在を把握し、今後の街づくりやブランド化に発展させていくためにも、行政の関与が必要である。										
有効性	市民等のニーズとの一致	来場者から「市民がこんなにも多くの絵画を所有しているなんて知らなかった。」「また開催してほしい。」という声が多く聞かれた。特に市外の人から「大野の文化の高さを知った。」「羨ましい。」「見応えがあった。」という声が上がっており、大きな会場でも多数の絵画を展示したことが、満足度につながったと思われる。									
	目的達成状況	マスコミ向け内覧会を開催したことが功を奏し、多くの報道機関が取り上げたことで市外からの来場者が多く、当初の目的の一つである「優れた絵画が大野に存在する状況を発信する」ことは達成できたと考える。また、来場者の声やアンケート結果から、絵画が存在する理由や背景にある大野の文化の流れについても、一定の理解が深まったと考える。									
効率性	事業内容、手法、統合の検討	平成23年度の基盤があったとはいえ、展示絵画の掘り起こしや選定に非常な労力と時間が必要であった。今後は個人情報に留意しながら所有者と所有絵画をリスト化していくことを検討したい。									
	事業費削減の検討	平成26年度は中心市街地再興戦略事業費補助金により開催した結の故郷発祥祭の一環としての位置づけだったため事業費が増大したが、内容を精査して積み上げた金額であり、これ以上の削減はできない状況であった。									
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	事業の内容・財源によっては実行委員会に委託または協働で実施することが可能である。26年度は、前述の補助金を充てたため、実行委員会を立ち上げて事業に臨んだ。									
総合評価	現状分析及び残された課題	市民が絵画を多く所有しており、それらは大変価値のあるものだという認識は十分浸透したが、個人の所有であるこれらを、行政としてどのように扱い、活用し、保存していくかが大きな課題である。常設できる施設の持ち方と共に、時の経過に従い進むであろう流出を、いかにして阻むか検討することが重要である。									

一次評価	事業の評価	本市に存在する市民所有の絵画展を開催し、市民の文化芸術に触れる機会の創造に寄与したことは評価できる。展示作品についても、来場者から高い評価を得ており有意義な事業であった。					方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	市民所有の貴重な絵画が市外へ流失することを防ぐ方策及び規模の大小は問わずにいつでも、誰でも鑑賞できる場の検討が必要。						見直し額	千円
		評価	A				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止	
							<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止	
							<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了	

二次評価	事業の評価	市外からも多くの来場者があり、優れた絵画が大野にもあることを発信することができた。					方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	市民が所有する絵画などの取り扱いの検討が必要である。						見直し額	千円
		評価	A				<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止	
							<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止	
							<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了	

整理番号 269

会計区分
 一般会計
 特別会計
 企業会計

平成26年度事務事業評価シート

事業名	大野市総合文化祭		含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興				
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 豊かな心を育てる文化力の育成				事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	41年度	経過年数	1年	終了予定年度	—	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	—														

事業目的	対象	市民全体	意図	日ごろの文化活動の発表の場を提供し、文化活動の底辺を拡大することによって文化の普及向上を図る。											
------	----	------	----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業内容	伝統あるふるさとの文化を継承するとともに、新しい文化を創造し、市民に芸術文化の振興を図ることを目的に、市民あがての文化の祭典を開催する。 ・ 展示部門を結とびあを中心に開催 ・ 芸能部門を文化会館を中心に開催 ・ 会期 10月26日(日)～11月3日(月)											
------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	1,200	1,200	1,200	1,200	0.0%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	1,200	1,200	1,200		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	1,170	1,196	1,198		#DIV/0!	11月1日から3日の文化の日までの日程で、大野市総合文化祭として定着している催しである。		
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債					事業開始後の見直し状況		
	その他特定財源							
一般財源	1,170	1,196	1,198			—		
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	各部門におけるイベントの合計	目標	13	13	14	14	達成状況	活動状況を示す数値として、イベント数を指標とする。
		実績	13	13	14		100.0%	
成果指標	全体来場者数	目標	10,000	10,000	10,000	10,000	達成状況	芸術文化への市民への関心度として、来場者数を指標とする。
		実績	8,173	9,950	9,864		98.6%	

公共関与の必要性	大野市内の文化芸術等の発展、普及を目的としており、市全体を対象とした催しであり、行政が関与する必要がある。											
有効性	市民等のニーズとの一致	市民が日頃の文化芸術活動の成果を発表する年に一度の限られた機会である。										
	目的達成状況	今年で48回目となる大野市総合文化祭においてはポスターを作成し、より広い周知に努めた。また展示作品の目録を作成することで身近なものに感じてもらえるよう努めた。										
効率性	事業内容、手法、統合の検討	文化祭にあわせたイベントを実施するなどして、幅広い層の入場者数の増加が見込める。										
	事業費削減の検討	文化祭実行委員会への委託事業であり、監査等で適切な支出を促し、無駄な経費を削減することは可能。										
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	文化協会団体および郷土芸能団体、小中学校、保育園、幼稚園、公民館などで構成された文化祭実行委員会への委託事業である。										
総合評価	現状分析及び残された課題	年々、文化協会の高齢化が進んでおり、今の規模での開催は大変な労力を要する。										

一次評価	事業の評価	展示スペースの変更を行うなど創意工夫が見られる。市民の文化芸術活動の成果を発表する機会であり有効な事業であるが、文化祭の中身も少しずつ変化していくことが必要である。					方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	新たな出品者(学校等)、出演団体(者)の掘り起こしを行う。						評価	B

二次評価	事業の評価	ポスターによる周知に努めるとともに、展示作品の目録を作成するなど文化祭を身近なものに感じてもらえるよう努めることができた。					方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	さらに文化祭を身近に感じてもらえる工夫が必要である。						評価	B

整理番号 271

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	文化公演事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	生涯学習課	グループ	生涯学習・文化振興	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	実行予算	<input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他	事業開始年度	— 年度	終了予定年度	— 年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	—	豊富な心を育てる文化力の育成									

事業目的	対象	市民全体	意図	多彩な文化公演事業の開催
------	----	------	----	--------------

事業内容
 自主事業を実施する。
 ・映画会2回実施 福井映画センター共催「そして父になる」・文化庁共催映画上映会「特集 市川崑の世界」
 ・大野市出身の音楽家 尾野玲子のコンサート
 ・こども芸術劇場 劇団芸優座公演「一休さん」
 市民が自ら企画実施した公演及び展示に対して大野市文化事業補助金交付要綱に基づき補助金を交付する。(11件)

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	10,374	5,572	5,897	9,361	-14.5%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	10,374	5,572	5,897		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	7,135	3,687	4,952		#DIV/0!	文化芸術の範囲は広がり、対象となる年齢も広がりを見せている。地方で公演することの必要性も高まっていることから、本市にも多数の公演案内が届くが、開催費用がかさみ実現は容易ではないのが現状である。		
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況		
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源	2,149	481	506		自主事業については内容が多岐にわたるよう、ポップスコンサート、クラシックコンサート、落語、演劇、映画など、毎年趣向を変えて開催してきた。		
一般財源	4,986	3,206	4,446			指標設定の考え方、積算根拠等		
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称								
活動指標	公演等の開催件数	目標	15	14	16	16	達成状況	文化芸術等に触れる機会を提供した件数を活動指標とする
		実績	11	14	15		93.8%	
成果指標	公演等の参加人数	目標	4,500	4,500	5,000	5,000	達成状況	文化芸術等に触れた市民人数として公演等の参加人数を成果指標とする
		実績	3,006	4,252	4,851		97.0%	

公共関与の必要性	規模の大きい文化公演の実施は民間では困難なため、市主催で開催する必要がある。また、自主財源だけで事業を開催できる市民団体は限られているため、補助金の交付は必要である。	
有効性	市民等のニーズとの一致	市内で映画やコンサートを鑑賞したいという市民のニーズに応えている。
	目的達成状況	補助金交付申請の募集をHPや広報おの等を活用し、広く周知するよう努めた。また、ポスターやチラシ、HP記事掲載等により、公演を周知し、入場者増に努めた。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	大野市文化事業補助金と合わせて、県や財団等による文化公演事業に対する補助制度を活用することにより、公演数の増加や規模の大きな公演が可能となる。情報の取得に務め、早期に申請することが必要である。
	事業費削減の検討	適切な補助金の使用について、事業実績報告時の審査、監査を行い、事業目的に沿わない経費の削減に努めている。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	文化会館の方向性を定めるにあたり、文化公演事業の委託を視野に入れる必要があると考える。
総合評価	現状分析及び残された課題 上質な公演を鑑賞するためには相応の金額を支払うという概念が浸透しにくく、無料のものや安価な料金設定が期待されている。感動を与える内容の公演を地道に積み重ね、レベルの底上げを図る必要がある。	

一次評価	事業の評価	多彩な文化公演事業を開催する有効な事業であるが、市民主体の活動をどのように盛り上げ、啓発していく方が課題となっている。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	市民が自ら企画・実施する公演等の文化芸術活動の開催を支援するため、大野市文化事業補助金の活用を呼びかける。		
			評価点	B

二次評価	事業の評価	公演等の入場者の増加により市民への文化芸術を広めることができた。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	民間が音響設備のある文化会館を活用できるよう工夫が必要である。		
			評価点	B

整理番号 273

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	埋蔵文化財発掘調査事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	文化財保護室	グループ	保護・整備		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	■ 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	年度 経過年数	終了 予定年度	年度	事務区分	■ 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	豊かな心を育てる文化力の育成											

事業目的	対象	意図
	市民・埋蔵文化財	市内にある埋蔵文化財を保護し、後世に良好な状態で伝える 市民に埋蔵文化財保護に対する意識啓発を促す

事業内容	試掘調査等で市内に点在する埋蔵文化財の有無を確認し、その保護等を図る。 発掘調査が必要な場合は、調査を実施し、埋蔵文化財の記録保存を図る。
------	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	1,149	674	691	691	-22.6%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	1,149	674	691		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	113	171	79		#DIV/0!	文化財保護に対する国民の意識が高まってきており、地域固有の歴史や文化の価値も見直されてきている。特に埋蔵文化財は、地域固有の歴史遺産であり、文化的、教育的価値は高まってきている。また、観光資源としての活用も期待されつつある。		
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債					事業開始後の見直し状況		
	その他特定財源							
一般財源	113	171	79			事業内容が年度ごとに流動的であるため、中長期的、計画的な見直しは困難		
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	試掘調査の実施件数	目標	2	2	2	2	達成状況	調査を実施し、遺跡破壊を未然に防いだ件数
		実績	3	2	0	—	%	
成果指標	破壊された遺跡数	目標	0	0	0	0	達成状況	遺跡の破壊を防止できなかった件数
		実績	0	0	0	—	%	

公共関与の必要性	文化財保護法に基づき、国民共有の財産である埋蔵文化財を保存継承するため、市は、国の施策に準じた施策及びその地方公共団体の区域の特性に応じた施策を策定し、実施する責務を有する。	
有効性	市民等のニーズとの一致	民間実施の開発行為の増加に伴い、埋蔵文化財の有無の照会は増加傾向にある。また公共施設の建設に伴う試掘調査、文化財の価値判断目的の試掘調査も増加してきている。
	目的達成状況	埋蔵文化財の有無の照会、開発行為に伴う試掘調査や届出については、文化財保護法に従い適切に処理した。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	埋蔵文化財に係る事務処理の手続きは文化財保護法等の法令で定められたものであるため、事務内容を見直すことは不可。
	事業費削減の検討	埋蔵文化財の周知や照会に対する回答等は地方公共団体の責務であるため、削減の余地なし。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	試掘調査は埋蔵文化財の有無や範囲確認を行い、発掘調査を実施する場合の調査面積や調査期間、調査費に關係する重要なものである。今後の開発行為の内容を左右する重要なものであるため公平性を保つためにも民間委託するべきものではない。本発掘調査については民間委託した実績もあるが、市が監督管理の下で実施している。
総合評価	現状分析及び残された課題	民間、公共事業ともに試掘調査の結果により発掘調査が必要となった場合、開発行為の計画変更を余儀なくされる場合がある。特に開発行為の遅延や経費の負担については、調整が困難となることが予想される。また発掘調査の必要な開発行為が複数重なった場合の対応について課題が残る。

一次評価	事業の評価	埋蔵文化財の試掘調査は埋蔵文化財の有無や範囲確認を行う上で重要であり、埋蔵文化財の保護に必要な事業である。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	市民等へ埋蔵文化財に対する理解と周知を図るとともに、その保護に努め、関係資料を調査し遺構や遺物が存在しそうな箇所を把握する。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	千円	
			評価点	B	
				<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
				<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了

二次評価	事業の評価	試掘調査は、埋蔵文化財の有無や範囲確認を行う上で重要である。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	市民等へ埋蔵文化財に対する理解と周知を図る必要がある。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	千円	
			評価点	B	
				<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
				<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 完了

整理番号 275

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	歴史博物館特別展開催事業	含まれる事業数	1	所属	部(局) 教育委員会	課(室)	文化財保護室	グループ	歴史博物館
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	26年度	終了予定年度	26年度
関連計画	豊かな心を育てる文化力の育成	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他	26年度経過年数	年	26年度			

事業目的	対象	市民一般(市外含む)	意図	発祥祭を記念して、旧大野郡から全国的に著名な面打師を輩出している歴史を知っていただき、その作品の美を鑑賞していただく
------	----	------------	----	--

事業内容	特別展「大野出目家の能面」展 彦根城博物館、池田町能面美術館等が所蔵する鎌倉時代の大野郡にいた面打師の能面や江戸時代の世襲面打家「大野出目家」の能面作品と、大野の各神社等に所蔵される古面を展示。また、市民で能面作りを趣味としている方の作品も展示した。 ・10月11日(土)～11月3日(月)・会場 歴史博物館第2展示室・入館者数957人 ・記念講演会「能面への想い」講師・桑田能忍(前池田町能面美術館長、能面師)・受講者33人 ・発祥祭記念事業として開催
------	---

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン
当初予算額	0	0	3,638	0	#DIV/0!	状況・環境の変化
3月現計予算額	0	0	2,194	0	#DIV/0!	
決算額(執行済額)	0	0	2,192	0	#DIV/0!	地域の持つ文化遺産を活用し、地域に活力を生み出すことが重要視されており、博物館の事業においても新たな地域文化遺産の発掘を心がけている。
財源内訳	国庫支出金	0	0	0		事業開始後の見直し状況
	県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		能面や能面と言うテーマがやや一般市民の興味を惹かないのではないか。今後は市民の興味を惹くテーマを対象にしたい。
	その他特定財源 一般財源	0	0	501 1,691	0	
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等
その他特定財源名称						
活動指標	展示期間日数	目標		30	達成状況	開催期間を1か月程度無休館として設定
		実績		24	80.0%	
成果指標	特別展入館者数	目標		2,000	達成状況	歴史博物館の入館者数の増加に役立つ
		実績		957	47.8%	

公共関与の必要性	大野市内には類似の施設がなく、大野市の歴史・文化をテーマにした展示会をするための資料収集は公的機関として行うことが効率的である。今回、彦根城博物館や、大野市内の各神社等も貴重資料の取り扱いに関して信頼して貸していただいたことから行政の関与は必要である。
----------	--

有効性	市民等のニーズとの一致	彦根城博物館所蔵の能面は重要文化財クラスの資料であり、公開される機会が少ない。そういった資料を大野市において公開することは、美術品に高い関心を抱く市民にとっては得難い機会となる。
-----	-------------	---

目的達成状況	新聞各社やNHKテレビ・ラジオのニュース報道で取り上げられたことによって、他市の能面愛好者も多く訪れた。愛知県からは著名な能面師で能面研究者としても名のある方が弟子を引き連れて訪れた。マスコミによって大きく取り上げられることは、大野市博物館のみならず、大野市全般に対する理解度を上げるものである。
--------	--

効率性	事業内容、手法、統合の検討	特別展として資料の借展示や講演会の開催は順調に行ったが、事前の広報不足、他の展示会との開催時期の重複により市民の入館が少なかった。特別展終了後に市内の小中学校・高等学校・公民館などで、残った資料やパネルの巡回ミニ特別展をする、学校の授業に活用したり、博物館への関心を高めることができる。
-----	---------------	---

事業費削減の検討	展示パネルや解説キャプションなどの自作による経費削減はできるが、ポスター、看板などの広報にかかる費用や展示・講演にかかる謝礼等企画内容によって変動するものがあるので、経費の削減は難しい。
----------	---

民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	特別展や企画展は、博物館の常設展示で補うことができない部分や、学芸員の調査・研究活動で出てきた課題などをテーマに行うものであるため、民間委託は難しい。展示・講演準備や、期間中の展示室管理などに、市民協働を得ることは可能である。
------------------------	---

総合評価	現状分析及び残された課題	能面展は従前からの計画で決定していたため変更せず実施したが、今後はもっと市民の興味に密着したテーマを取り上げて、博物館への関心を高めることが求められる。また、入館者数の増加を図るため、市民参加・体験型の企画を取り入れるよう考慮していきたい。
------	--------------	--

一次評価	事業の評価	特異な分野の特別展であり、入館者数は低調であったが、来場者の評価は高いものがあった。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善策	特別展の開催方法について、市民ニーズの調査を要する。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
				<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 完了
		評価	C		
					千円

二次評価	事業の評価	入館者は少なかったが、新たな地域文化遺産の発掘をしたことは、マスコミにも大きく取り上げられ、大野市博物館のみならず、大野市全般に対する理解度を上げることができた。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善策	一般市民の興味のあるテーマを対象にする必要がある。		<input type="checkbox"/> 拡充	<input type="checkbox"/> 廃止
				<input type="checkbox"/> 縮減	<input type="checkbox"/> 休止
				<input type="checkbox"/> 終期見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 完了
		評価	B		

整理番号 279

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	イトヨの里保護啓発推進事業		含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	文化財保護室	グループ	本願清水イトヨの里
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input checked="" type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行政改革 [豊かな心を育てる文化力の育成]		事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	13年度	終了予定年度	13年度	事務区分	<input type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input checked="" type="checkbox"/> その他
関連計画	越前おおの湧水文化再生計画										

事業目的	対象	大野市民及び市外来館者	意図	環境のパロメーターでもあるイトヨの保護と生息環境保全や大野の水環境を考えることが、湧水文化の再生と将来に豊かな自然を継承していくことにつながり、町づくりからひいては人づくりにつながる。
------	----	-------------	----	--

事業内容	企画展、シンポジウムなどのイベントの開催を通してイトヨの保護及び環境保全について啓発する。 大野市ホームページで情報を発信する。 イトヨや水環境に関する学習会や野外での体験学習の支援を実施する。 市内外からの視察研修の受入れ。
------	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	406	346	744	804	14.5%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	306	346	744		#DIV/0!	市内小中学校だけでなく、県外の高校・大学のイトヨやイトヨを通じた水環境の学習利用が増加している。また企画展は市民団体との共催により4回開催し盛況であり、マスコミの報道を含めイトヨや環境保護への啓発に繋がっている。本願清水への外来魚(コクチバス)の密放流という事件が発生したが、外来種問題をテーマに開催した公開学習会では、多くの市民や関係者の参加があり、マスコミを通じた啓発は大変効果があった。		
決算額(執行済額)	293	303	482		#DIV/0!	事業開始後の見直し状況		
財源内訳	国庫支出金					事業を推進する様々なイベントなどを企画し入館者数の増加に繋げるべく取り組んできたが、観光客の増加には繋がらなかったため総入場者数は減少になった。今後はのぼりなど誘客につながる施策に取組む。2年目となるが、名水マラソン参加者へ無料招待券を発送し、広く湧水文化にふれる機会を提供している。		
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源							
一般財源	293	303	482			指標設定の考え方、積算根拠等		
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
その他特定財源名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	ホームページ更新回数	目標	40	40	40	40	達成状況	保護啓発活動として実施した事業の情報などをHPで公開する。
		実績	40	46	45		112.5%	目標を達成すべく事業を実施し、きめ細かい情報発信に取組む必要がある。
成果指標	入場者数	目標	11,574	10,099	12,451	11,000	達成状況	情報発信により入場者数の増加を図る。
		実績	9,613	11,858	10,323		82.9%	前年度対比105%目標。

公共関与の必要性	文化財保護法、大野市文化財保護条例に基づき、市民共有の財産である国指定文化財及び絶滅危惧種であるイトヨの保護保全、及び水文化を継承するため、市は国の施策に準じた施策及びその地方公共団体の区域の特性に応じ実施する責務を有する。また、本市湧水文化再生事業の一環としての役割を有する。
----------	---

有効性	市民等のニーズとの一致	学校関係の総合的な学習、職場体験、豊かな体験学習、ボランティアの受け入れ、一般市民(市内外)の生涯学習のニーズに対応している。
-----	-------------	---

有効性	目的達成状況	市民団体との共催で実施した陶芸展や水彩画展などのイベントや公開講座の実施など、マスコミにも多く取り上げられ、話題性として保護啓発推進事業としては一定の成果はあったものの、観光客の減少により総入場者数は目標の82.9%と未達であった。
-----	--------	--

効率性	事業内容、手法、統合の検討	今年度よりイトヨ保護研究費と事業統合を行い事業の効率化を図った。特に「コクチバス」の違法放流問題をテーマに開催した公開講座では、イトヨのみならず環境や文化財の保護保全などマスコミを通して市民に広く啓発することができ、効率化の成果がよく現れた。今後も継続的に学習会などを開催することでさらに効果が高まる。
-----	---------------	---

効率性	事業費削減の検討	学習施設としての利用は継続して一定の成果を得ているが、観光の場としての集客を増加すべく施策を検討する必要があり削減の余地はない。
-----	----------	--

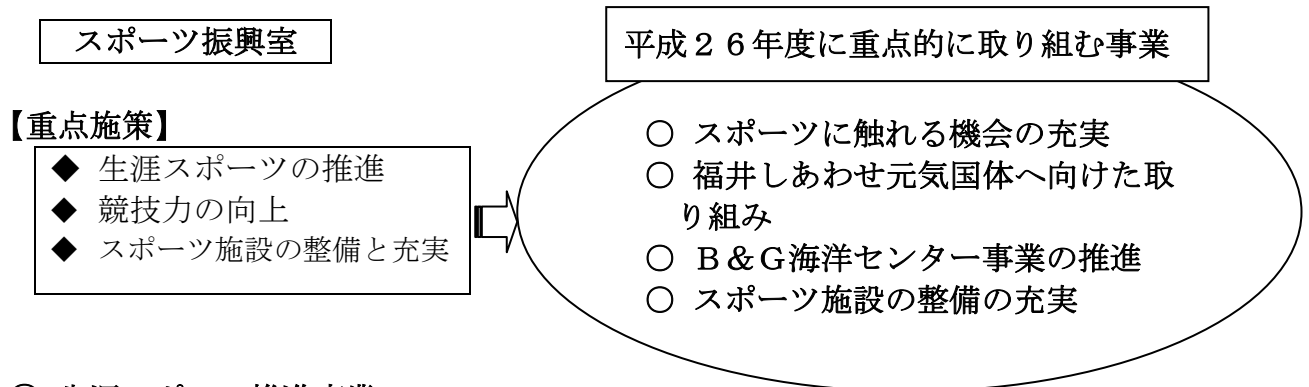
効率性	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	糸魚町の草刈や大野市漁協の雑魚駆除の協力や企画展・フォーラムの共催など、市民協働を行っているといえる。イトヨの保護は市や国などの施策に沿った業務を必要とし専門性が高いため、民間委託は困難と考える。
-----	------------------------	--

総合評価	現状分析及び残された課題	HPの更新数(施設の{話題提供})は目標達成を上回った。イベントや話題がマスコミにも大いに取上げられ、情報発信の役割を十分果たした。本来の目的である学習施設としての利用回数やイベント参加者数は増加したが、総入場者数は目標に達しなかったため、観光の場としての利用回数を増やすために、来館者の多い恐竜博物館や越前大野城からの誘客についての取組みが課題となる。
------	--------------	---

一次評価	事業の評価	年間を通してイトヨの観察会などのイベントや特別展、シンポジウムを開催するとともに、イトヨの保護と名水のまち越前おおのを全国に向け発信しており効果的な事業であった。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	イトヨ観察会や保護に向けて他機関と連携した活動を行うとともに、施設の情報発信に努め、来場者数の増加を図る必要がある。		見直し額	

二次評価	事業の評価	年間を通じたイベントや特別展、シンポジウムを開催し、イトヨの保護と名水のまち越前おおのを全国に向け発信することができた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	他の施設との誘客に努めるとともに施設の情報発信に努め来場者数の増加を図る必要がある。		見直し額	

ウ 活力あふれるスポーツ社会の実現



① 生涯スポーツ推進事業

市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術・興味・目的に応じて、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、各種大会、スポーツ教室等を開催しています。

平成26年度は、通常の教室などの開催以外に、『はつらつママさんバレーボール in 大野』と題し、元全日本バレーボール女子代表選手をお招きし、交流試合や実技指導を受けることで、一流選手のプレーを身近に感じてもらい、よりスポーツに親しめるよう取り組みました。

また、総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」についても、スポーツ教室等の開催にかかる支援を行いながら、会員の増加に努めております。

さらには、より多くの市民がスポーツに親しむことができるよう、各公民館等と連携し、スポーツ教室「みんなでスポーツ」を開催しており、参加者は、毎年1000人を超えています。

〔課題と今後の方向性〕

引き続き、総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」への支援や、各種大会、スポーツ教室等を開催し、スポーツを実践できる機会を提供していきます。

市民誰もが、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現するには、自発的にスポーツを行おうとすることが大切です。福井しあわせ元気国体の開催を契機にスポーツに対する関心を高めていきます。

② 越前大野名水マラソン開催事業

50回の節目となった本大会は、ゲストランナーに間寛平さん、山本佳子さんをお招きし、県内外から過去最高となる4,817名のエントリーを得て盛大に開催されました。

多くの市民がランナー（行う人）、沿道の応援（観る人）、運営ボランティア（支える人）として参加している今大会は、参加者からも市民のおもてなしの気持ちに対して好評を得ており、「名水のまち大野」「結の故郷越前おおの」を全国にPRすることができました。

また、恒例となっている前日の陸上教室には、ゲストランナーの山本佳子さんから、熱心に指導をいただき、参加した子どもたちからも好評を得ています。

〔課題と今後の方向性〕

市の一大スポーツイベントであるこの大会を通じて、競技会の運営、応援やボランティアとしての協力など、スポーツイベントに対する市民の参加意識の高揚を図ります。また、実際に運営に携わることで、本市の魅力を再認識してもらい、故郷を誇りに思う気持ちの醸成を図ります。

さらには、もてなしの気持ちを持ってランナーをお迎えし、本市の魅力を伝えていくことで、マラソン以外でも多くの方々に来訪してもらえるよう努めてまいります。

③ 各種大会開催事業

スポーツ振興と地域住民の交流を図るため、市民総合体育大会（夏季・冬季）を開催し、各種市民大会を開催し競技力の向上に努めました。

市民総合体育大会はスポーツの振興はもとより、地区対抗のため、地区住民の地域社会への参加、貢献意識を向上させる絶好の機会となっています。

また、奥越ふれあい駅伝や小学生相撲選手権大会は、毎年多くの市民が参加し、スポーツイベントとして定着しています。

〔課題と今後の方向性〕

市民が気軽に参加できる身近なスポーツ大会として、市民総合体育大会や奥越ふれあい駅伝大会、小学生相撲選手権大会などを開催しましたが、一部の大会において、参加選手の確保が難しいという課題があり、市民総合体育大会においては実施競技種目の見直しや、分散開催を検討しています。

なお、競技人口が減少している冬季のスキー競技については、競技部門の見直しを行ないました。

④ 学校体育施設開放事業

楽しく安全にスポーツ活動ができる場として、身近な学校体育施設（小学校8校、中学校4校）を市民に開放しています。

学校体育施設は、競技スポーツ以外に、生涯スポーツ、レクリエーション活動で多くの市民（平成26年度利用者実績154,334人）に利用されており、施設管理員の委嘱や必要な修繕を行うなど、施設の維持管理に努めました。

〔課題と今後の方向性〕

利用団体等へ施設利用のルールの遵守を徹底し、市民が気軽にスポーツやレクリエーション活動ができるよう、引き続き、学校施設を開放していき、市民の健康増進に努めていきます。

施設利用者が、安全かつ快適に利用できるよう、施設の維持管理に努めていきます。

⑤ 福井しあわせ元気国体強化育成交付金事業補助

平成30年に開催される、『福井しあわせ元気国体』に向け、競技力の向上と市全体の機運の向上を目的に、平成26年度から5年間、市内のスポーツ関連団体へ交付金を交付することとしています。

1年目となる平成26年度については、大野市体育協会を通じ、各地区体育協会や体協加盟団体へ、選手育成費などとして交付を行っています。

〔課題と今後の方向性〕

福井しあわせ元気国体の開催に向け、計画的に選手強化を行うとともに指導者の育成も行っていく必要があるため、重点強化種目の指定や本市の将来を担う子どもたちへの育成など交付金の使途の在り方について検討する必要があります。

⑥ 海洋センター活用促進事業

大野市B&G海洋センターは、昭和60年のオープン以来、市民の、健康・体力づくりの場として利用されているほか、市外の学校やスポーツ団体などの合宿で利用されており、スポーツを通して、市民との交流の場として活用されています。

また、B&G財団へ職員を派遣し、アドバンストインストラクターなどの資格を取得させ、青少年の健全育成及び地域住民の健康づくりを目的に、カヌー教室や水

泳教室など各種教室を開催しています。(平成26年度利用者数35,282人)

〔課題と今後の方向性〕

プール設置施設であることから、その特色を生かした教室や大会を運営していますが、一部の教室では、参加者が少ないため、多様化している市民のスポーツニーズを把握し、ニーズに対応した新たな取り組みを検討していく必要があります。

福井しあわせ元気国体の大野市開催種目である「カヌー競技」について、選手の育成を図ることはもとより、まずは、カヌー競技を市民に普及させるため、教室や出前講座を開催し、競技の楽しさを伝えていきます。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H26目標	H26実績	H27目標
名水マラソン参加者数	4,000人	4,817人	4,500人
みんなでスポーツ参加者数	2,100人	2,149人	2,500人
スポーツ施設利用者数	260,000人	288,680人	260,000人
スポーツ大会等での事故等発生件数	0件	0件	0件

平成26年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	生涯スポーツ推進事業	含まれる事業数	5	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ振興室	スポーツ振興	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 活力あふれるスポーツ社会の実現	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他	事業開始年度	- 年度	終了予定年度	- 年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	大野市スポーツ推進計画									

事業目的	対象	大野市民	意図	市民の週1回以上のスポーツ実施率を50%とする。(生涯スポーツ社会の実現)
------	----	------	----	---------------------------------------

事業内容	各種スポーツ教室・大会を実施し、市民のスポーツ実践に対する意識の向上を図り、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術及び目的に応じて、いつまでもスポーツを実践する生涯スポーツ社会の実現を目指す。 ・スポーツ教室「みんなでスポーツ」の実施(各公民館及びスポーツ振興室によるスポーツ教室) ・大野市スポーツ・レクリエーション祭の開催、スポーツ大会の開催(スパードッジボール大会)、体力テストの実施(年5回) ・総合型地域スポーツクラブ(みんスポクラブ)との連携・協力			
------	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	2,919	2,898	2,832	2,937	0.1%	-		
3月現計予算額	2,919	2,898	3,484		#DIV/0!	状況・環境の変化		
決算額(執行済額)	2,210	2,496	2,531		#DIV/0!	平成16年4月に総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」が設立され、生涯スポーツの実践活動の場(受け皿)が確保された。また、市民の求めに応じスポーツ推進員によるスポーツの実技指導が行われている。近年、健康増進に対する意識が高まり、健康づくりの手段としてスポーツを実践する人が増えてきている。		
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況		
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源	263	294	240				
一般財源	1,947	2,202	2,294			-		
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称	スポーツ大会参加料・生涯スポーツ参加料・スパードッジボール大会参加料					指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	みんなでスポーツ参加者数(人)	目標	1,900	2,000	2,100	2,500	達成状況	参加者の増加により、市民がスポーツを実践する機会が増える。
	みんなでスポーツ参加者数(人)	実績	1,900	2,424	2,149	-	102.3%	
成果指標	みんスポクラブの会員数(人)	目標	250	250	250	250	達成状況	みんスポクラブの育成・強化を図り、生涯スポーツ社会の確立を目指す。
	みんスポクラブの会員数(人)	実績	231	285	248		99.2%	

公共関与の必要性	スポーツ基本法により、地域の特性に応じたスポーツ振興施策を策定し、実施することが市の責務として定められている。民間のスポーツクラブだけでは、実施できる種目や場所が限られており、市民のスポーツ実施率を向上させるためには、市民の誰もが参加できる多様な事業を行う必要がある。	
有効性	市民等のニーズとの一致	スポーツに対する参加意欲(特に高齢者)が高まってきており、様々な年代が参加できるスポーツ教室の実施が求められている。
	目的達成状況	スポーツ振興室及び各公民館で実施している「みんなでスポーツ」は、参加者の要望に応じ新たな講座等を実施し、より多くの市民にスポーツを実践する機会を提供している。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	年間を通して事業を実施しているが、教室によっては参加者が多く抽選となる場合もあるため、参加者の要望に沿った教室の運営を行う必要があるため事業を縮小することはできない。しかし、当教室の種目や参加者の一部が継続的に活動を行うため、総合型地域スポーツクラブ(みんスポクラブ)へ移行していくことができれば、統合の余地はある。
	事業費削減の検討	大野市体育協会をはじめ各種競技団体等との連携により、経費削減の余地はある。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	既にいくつかの講座を民間企業等に委託している。今後より多くの市民にスポーツを体験していただけるよう市民からの提案による講座の開設や協働による取り組みを検討する必要がある。
総合評価	現状分析及び残された課題	生涯スポーツ社会の実現に向け、総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」が組織されているが、本事業で実施している「みんなでスポーツ」の種目及び参加者が、「みんスポクラブ」への組み入れ及び会員の増加につながりにくいのが現状であるため、みんスポクラブの指導者の確保・養成や会員の自主運営意識の向上等運営面での組織強化に努める必要がある。

一次評価	事業の評価	市民対象のさまざまな大会を開催し、スポーツに親しむ機会の創出を行っていることは評価できるが、みんスポクラブとの連携を図る必要がある。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	みんスポクラブ実施事業実施計画及び実施方法について改善を行い、より多くの参加者を得られる体制づくりが必要。		見直し額	
			評価	B	

二次評価	事業の評価	参加者の要望に応じ新たな講座等を実施することで、より多くの市民にスポーツを実践する機会を提供することができた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	様々な年代が参加できるスポーツ教室の工夫を図る必要がある。		評価	

整理番号 281

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	越前大野名水マラソン開催事業		含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ振興室	グループ	スポーツ振興				
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 活力あるスポーツ社会の実現				事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 補助金		事業開始年度	22年度	経過年数	5年	終了予定年度	年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	大野市スポーツ推進計画														
対象	意図														
事業目的	一般市民、県内外のランナー マラソン大会を通じて、生涯スポーツ社会の実現と市民の相互交流の場づくり														
事業内容	市内外から多くのランナーが参加する越前大野名水マラソン大会をさらに充実させ、名水のまち大野を全国にPRする。														

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	16,000	17,400	20,000	19,354	5.9%	2 事務事業の整理合理化 (3) 補助金等の整理合理化		
3月現計予算額	16,000	17,400	22,921		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	16,000	16,675	22,873		#DIV/0!	近年のマラソンブームも手伝って、市外・県外を問わず、参加者が増加傾向にある。大会規模が大きくなる上、参加者の増加に伴い、要望も多様になってきており、大会運営に関わる役員、ボランティアが十分に確保できないのが現状である。		
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況 平成21年度までは、各種大会開催事業の一部として予算化していたものを、平成22年度より単独で別事業とした。平成23年度より、スポーツ振興くじ(独立行政法人日本スポーツ振興センター)の助成を受け運営している。		
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源	14,172	14,554	17,306				
一般財源	1,828	2,121	5,567					
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
その他特定財源名称	名水マラソン参加料、スポーツ振興くじ助成金							
活動指標	実行委員会開催	目標	3	3	4	4	達成状況	大会開催に向けた実行委員会の開催
成果指標	大会参加者数	目標	4,000	4,000	4,000	4,500	達成状況	事業の成果として、大会申込者数を評価する。
		実績	4,107	3,997	4,817		120.0%	

公共関与の必要性	スポーツ基本法により、地域の特性に応じたスポーツ振興施策を策定し、実施することが市の責務として定められている。また、市スポーツ推進計画に各種大会を開催することが具体的施策として明記されている。本大会は、市と市体育協会との共同開催であり、大会を成功させるため連携して実施する必要がある。また、大会を通じて本市の良さを全国に伝えていくためには、市を挙げて取り組むことが不可欠である。	
有効性	市民等のニーズとの一致	大会での要望・意見は大会運営レベルのものがほとんどであるため、その都度、検討、改善を図っている。
	目的達成状況	参加者数は増加傾向にあったが、近年4000人前後で落ち着いてきた。平成26年度は、50回の記念大会ということもあり、4800人を超すランナーに参加していただき、目標数を大きく上回った。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	本市のマラソン大会は、本大会のみの実施であるため、統合の余地はない。経費の増加を抑え大会の質を上げるためには、市民の「もてなしの心」意識を高め、より多くのボランティアの協力が不可欠である。
	事業費削減の検討	本市を代表するスポーツイベントとして定着し、申込者数も増加傾向にあるため、会場設営・運営にかかる経費の削減は困難である。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	大会の企画や運営、ボランティアの募集など業務が多岐にわたり、多くの団体との調整が必要であるため民間委託は難しい。市民ボランティアや沿線地区による「彩り運動」や体協加盟団体による競技役員協力など、市民との協働による大会運営を行っている。
総合評価	現状分析及び残された課題	今後、参加者の増加が見込まれる中、本市の春の一大イベントとして、今大会が「市民挙げての大会である」との周知を図るとともに、より多くの市民がもてなしの心を持って大会に携われるよう、市民ボランティアのより充実した体制作りが必要である。

一次評価	事業の評価	大会のゲストランナーによる実技指導を開催し、競技力向上に努めている点は評価できる。また、市民挙げての大会であるとの周知を図るとともに、多くの市民がもてなしの心を持って大会に携わっている点は評価できる。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	大会開催にかかる情報発信方法等について改善を行い、より良い大会となるよう努めることが必要	
		見直し額	千円
		評価点	A

二次評価	事業の評価	春の一大スポーツイベントとして、市民挙げてもてなしの心を持った大会となった。そして、北は北海道から南は沖縄まで初めて全国から多くの選手が参加された。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	参加者数は5,000人が限度であると考え、もてなしの心を持って大会が行えるよう体制作りが必要である。	
		見直し額	千円
		評価点	A

整理番号 282

会計区分
 一般会計
 特別会計
 企業会計

平成26年度事務事業評価シート

事業名	各種大会開催事業	含まれる事業数	8	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ振興室	グループ	スポーツ振興	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	実行予算	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	1年度	終了予定年度	1年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	活力あるスポーツ社会の実現 大野市スポーツ推進計画										

事業目的	対象	意図
	一般市民	各種大会を通じた生涯スポーツと相互交流の場づくり

事業内容	スポーツ振興及び地区住民の交流を図るため、市民総合体育大会（夏季・冬季）を開催する。競技力の向上を図るため、各種市民大会を開催する。 ・第57回市民総合体育大会夏季大会・冬季大会 ・第51回奥越ふれあい駅伝大会 ・第28回小学生相撲選手権大会 ・第36回九頭竜スキー選手権大会 ・第21回IZUMIクロスカントリースキー大会 ・各種市民大会 ・坂井・奥越地区高等学校野球大会										
------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	4,977	5,021	5,131	5,261	1.8%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	4,977	5,021	5,131		#DIV/0!			
決算額(執行済額)	4,513	4,584	4,710		#DIV/0!	市民総合体育大会に代表される地区対抗大会においては、各地区での選手集めに苦慮する姿が見取れる。これらは、現代人のスポーツに対する価値観の多様化や個人主義が少なからず影響している結果といえる。		
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況		
	県支出金							
	地方債							
	その他特定財源	491	493	455				
一般財源	4,022	4,091	4,677			平成24年度から、市長杯争奪高等学校野球大会を坂井地区とでの合同開催とし、委託事業から事業補助とした。		
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等		
その他特定財源名称	各種大会参加料							
活動指標	委託団体数	目標	2	2	2	2	達成状況	大会を開催するための運営を委託する団体
	委託団体数	実績	2	2	2		100.0%	
成果指標	大会開催数	目標	31	30	30	33	達成状況	大会が開催されることにより、市民のスポーツ参加が促進される。
	大会開催数	実績	31	31	31		103.3%	

公共関与の必要性	スポーツ基本法により、地域の特性に応じたスポーツ振興施策を策定し、実施することが市の責務として定められている。また、市スポーツ推進計画に各種大会を開催することが具体的施策として明記されている。										
有効性	市民等のニーズとの一致	スポーツに対する価値観の多様化等により、参加者は、リピーター若しくは競技団体関係者であり、新規で参加する市民はあまりいない。									
	目的達成状況	当初予定している大会は、予定どおり開催できる見込みである。									
効率性	事業内容、手法、統合の検討	各競技団体等主催の大会等が増え、競技スポーツを実践できる機会が増えてきている中、市主催の大会参加者は横ばいもしくは減少傾向にある。多忙な社会環境の影響も少なからずある中、種目等の見直しを含め、大会の在り方そのものを検討する時期に来ている。									
	事業費削減の検討	市民が参加しやすい大会としての在り方を検討する中で、事業費の削減の是非について検討していく。									
	民間委託（公設民営を含む）、市民協働の可能性	ほとんどの大会運営を体育協会等の団体に委託し運営している。									
総合評価	現状分析及び残された課題	参加者の減少、運営協力者の固定化を解消できるよう、より広く市民が気軽に参加できるような大会を検討する。									

一次評価	事業の評価	各種大会を通じた競技及び生涯スポーツと参加者相互交流の場づくりとなっていることは評価できる。今後は、参加者の固定化にならないよう検討する必要がある。						方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	競技に徹することも必要なことであると考え、多くの市民が気軽に参加できる大会の開催も必要。							見直し額	千円
							評価点	B	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
									<input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 終期見直し

二次評価	事業の評価	大会参加者が減少傾向にある中、大会は予定どおり開催することができた。						方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	より広く市民が気軽に参加できるような大会を検討する必要がある。							評価点	B
									<input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 終期見直し

整理番号 283

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

平成26年度事務事業評価シート

事業名	学校体育施設開放事業	含まれる事業数	1	所属	部(局) 教育委員会	課(室)	スポーツ振興室	グループ	スポーツ振興		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	実行予算	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	- 年度	終了予定年度	- 年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	活力あるスポーツ社会の実現		大野市スポーツ推進計画								

対象	意図	
事業目的	一般市民	市民のスポーツ活動の場を確保し、生涯スポーツの推進を通して、市民の心身両面にわたる健康保持を図る。

事業内容	小学校8校、中学校4校、学びの里めいりん（体育館・プールの部分）の体育館・運動場を開放する。 ・管理指導員に対する報償費支給 ・施設清掃用、体育消耗品の補充等 ・照明設備等修繕 ・体育備品の買い替え等 ・3中学校の運動場照明設備にかかる管理運営	
------	---	--

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン
当初予算額	7,635	8,265	8,757	8,673	4.0%	状況・環境の変化
3月現計予算額	7,635	8,265	8,757		#DIV/0!	
決算額(執行済額)	6,538	7,392	7,572		#DIV/0!	一般団体やスポーツ少年団の活動が活発になり、施設利用は、近年増加傾向にある。これに伴い、学校の授業で使用する以上に学校体育施設設備品の消耗が多く見受けられる施設もある。
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					事業開始後の見直し状況
	その他特定財源	2,201	2,338	2,288		
一般財源	4,357	5,054	5,284			
国庫・県支出金名称						
その他特定財源名称	学校体育施設使用料					指標設定の考え方、積算根拠等
活動指標	学校体育施設利用延件数	目標 7,721	7,800	7,800	7,800	達成状況 月毎申請に対しての利用許可日数・人数により算出
	学校体育施設利用延件数	実績 7,721	7,195	7,422		95.2%
成果指標	学校体育施設利用延人数	目標 146,354	147,000	147,000	160,000	達成状況 月毎申請に対しての利用許可日数・人数により算出
	学校体育施設利用延人数	実績 146,354	136,183	154,334		105.0%

公共関与の必要性	スポーツ基本法により、地域の特性に応じたスポーツ振興施策を策定し、実施することが市の責務として定められている。また、市スポーツ推進計画に各種大会を開催することが具体的施策として明記されている。大野市立学校体育施設の開放に関する条例に基づき、市はスポーツ及びレクリエーション活動の場を確保し、市民の心身の健全な発達に寄与しなければならない。	
有効性	市民等のニーズとの一致	利用希望者数に対して、施設の収容能力はほぼ限界に達している。
	目的達成状況	事業内容については、予定通り実施している。今後も必要性和有効性を念頭に置いて効率的な事業の実施に当たる必要がある。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	これまで、必要最小限の事業費で対応しており、これ以上の縮小については慎重に検討すべきである。また、他に類似事業がないため統合の余地はない。
	事業費削減の検討	公共サービスとして、必要最小限の事業費で対応しており、これ以上の削減はサービスの低下を招く恐れがあるため、慎重に検討すべきである。
	民間委託（公設民営を含む）、市民協働の可能性	可能な限り実施している。
総合評価	現状分析及び残された課題	利用者の増加への対応や年度内の使用料完納、施設の適正な維持管理は今後の大きな課題であるが、市内の学校体育施設数を考慮すると、利用件数は現状がピークと考えられる。

一次評価	事業の評価	小中学校が使用していない夜間の体育施設を活用して市民のスポーツ活動の場を確保することにより、生涯スポーツの推進と市民の健康増進を図っている点は評価できる。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	市民誰もが利用できるようにするため、利用者が固定化することのないような工夫が必要。	
		評価点	B

二次評価	事業の評価	市民のスポーツ活動の場を確保し、生涯スポーツの推進を通して、市民の心身両面にわたる健康保持を図ることができた。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	施設の利用者が固定化することのないような工夫と適正な維持管理が必要である。	
		評価点	A

整理番号 285

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	福井しあわせ元気国体強化育成交付金事業補助	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ振興室	グループ	スポーツ振興		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他		事業開始年度	26年度	終了予定年度	30年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	活力あふれるスポーツ社会の実現			事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> その他		経過年数	1年				

事業目的	対象	意図
	スポーツ関係者、大野市体育協会	福井しあわせ元気国体に向けて選手等の育成強化につなげる。
事業内容	福井しあわせ元気国体に向けて交付金制度を創設して育成強化につなげる。(平成26年度～平成30年度 5ヶ年)	

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン
当初予算額			2,000	2,000	#DIV/0!	—
3月現計予算額			2,000		#DIV/0!	状況・環境の変化
決算額(執行済額)			2,000		#DIV/0!	平成30年開催の福井国体に向け、計画的に選手強化、指導者育成を行わなければならない。
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況
	県支出金					
	地方債					
	その他特定財源					
一般財源			2,000			—
国庫・県支出金名称	—					
その他特定財源名称	—					指標設定の考え方、積算根拠等
活動指標	目標					達成状況
	実績					%
成果指標	目標					達成状況
	実績					%

公共関与の必要性	福井国体での最大の目標である天皇杯の獲得に向け、選手強化はもちろん指導者育成や大会運営など行政と各競技団体が協力して準備を行う必要がある。	
有効性	市民等のニーズとの一致	福井国体の概要は示されているが、具体的な内容が不透明のため、市民の中では、国体に対する機運が醸成されていない。
	目的達成状況	選手等の育成については、一日してならないため、各競技団体と連携を図り、国体に向け計画的に育成強化を図っていくこととしている。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	選手等の育成強化を目的に、大野市体育協会を通じて、各種目団体、各地区体育協会、スポーツ少年団へ通常の育成費に上乗せして育成費を交付しているが、当該交付金については、福井国体開催までの期間を区切った交付金制度であるため、事業の統合の余地はない。
	事業費削減の検討	国体に向けた育成強化費であるため事業費の削減の余地はない。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	各種目団体、各地区体育協会やスポーツ少年団と協働により、選手の育成強化を図っている。
総合評価	現状分析及び残された課題	選手等の育成強化を目的に、大野市体育協会を通じて、各種目団体、各地区体育協会、スポーツ少年団へ育成費を交付しているが、1団体あたりの交付金額は少額であるため選手等の育成強化に直に繋がっているとは言い難い。重点強化種目の指定や本市の将来を担う子供たちへの育成等交付金の使途の在り方について検討する必要がある。

一次評価	事業の評価	実施1年めの事業であり、事業実施内容は評価できる。今後、内容の検討を行いながら、事業趣旨に基づいた事業の展開が期待される。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	交付金の配分方法等について、将来性のある個人や団体への交付も含めて関係者等と協議を行う必要がある。		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止
			見直し額	3,000 千円
			評価点	B
				<input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止
				<input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了

二次評価	事業の評価	選手等の育成強化を目的に大野市体育協会を通じて育成費を交付しており、選手等の育成強化に繋がった。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合
	改善方策	重点強化種目など使途の在り方について検討する必要がある。		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止
			評価点	B
				<input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止
				<input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了

整理番号 289

平成26年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名	海洋センター活用促進事業		含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ振興室	グループ	スポーツ振興		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 活力あるスポーツ社会の実現				事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 補助金		事業開始年度	S60年度	経過年数	終了予定年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	大野市スポーツ推進計画				事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> その他		事業開始年度	29年	経過年数	終了予定年度	事務区分	<input type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他

事業目的	対象	市民（主に小学生）	意図	スポーツ技術の向上、スポーツを通しての市民の交流を図る。
------	----	-----------	----	------------------------------

事業内容	プールでの水泳教室、武道場での柔道教室、その他アリーナ等を使ったスポーツ教室やスポーツ大会等を開催する。 ・少年柔道教室（10回） ・短期水泳教室（8回） ・初級水泳教室（8回） ・中級水泳教室（8回） ・カヌーを使った水辺の安全教室 ・ニュースポーツ教室（5回） ・チャダンス教室（5回） ・水泳大会（1回）
------	---

	24年度 (実績)	25年度 (実績)	26年度 (実績)	27年度	平均伸び率	行政改革推進プラン		
当初予算額	748	742	961	961	7.3%	状況・環境の変化		
3月現計予算額	748	742	961		#DIV/0!			
決算額（執行済額）	448	530	615		#DIV/0!	近年、健康増進に対する意識が高まり、健康づくりの手段としてスポーツを実践する人が増えてきているが、一部の教室を除きスポーツ教室などへの参加には結びついていない。		
財源内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債					事業開始後の見直し状況		
	その他特定財源	12	26	77				
一般財源	436	504	537					
国庫・県支出金名称								
その他特定財源名称	事業参加料					指標設定の考え方、積算根拠等		
活動指標	教室・大会事業数	目標	8	8	8	8	達成状況	スポーツ教室・大会として海洋センターが実施した事業数をあげる。
	教室・大会事業数	実績	8	8	7		87.5%	
成果指標	教室・大会参加延べ人数	目標	800	700	700	700	達成状況	海洋センターが実施したスポーツ教室・大会に参加した延べ人数をあげる。
	教室・大会参加延べ人数	実績	522	582	737		105.3%	

公共関与の必要性	スポーツ基本法に基づき、広く市民が自主的かつ積極的に参加できるようなスポーツ教室や競技会等を実施するよう努めなければならない。 民間のサービスだけでは、市民にとって望ましい質・量のサービスが確保できない。	
有効性	市民等のニーズとの一致	スポーツに対するニーズの多様化により市民ニーズをつかみにくいのが現状であるが、水泳教室は好評である。
	目的達成状況	指導者の都合により実施できなかった教室があったが、ほぼ予定通り開催できた。水泳教室が好評であり、参加者数が増えた。
効率性	事業内容、手法、統合の検討	プール設置施設であることから、その特色を生かした教室・大会等を行っている。市民からの教室に対する要望も少ないため、教室などの参加状況によっては事業等の縮小も考えられるが、スポーツに対する関心は高まっているため、多様化した市民のスポーツニーズを把握し、事業を継続していかなければならない。
	事業費削減の検討	市民が参加しやすい教室等の在り方を検討する中で、事業費の削減の是非について検討していく。
	民間委託（公設民営を含む）、市民協働の可能性	指導者の派遣や教室の運営で種目団体等と協働で事業を行っている。
総合評価	現状分析及び残された課題	事業は、ほぼ予定通り実施し、参加者の反応はおおむね良好である。 より参加者を増やしていくためには、多様化した市民のスポーツニーズに対応した新たな取り組みが必要である。

一次評価	事業の評価	スポーツ技術の向上、スポーツを通しての市民の交流を図っている点は評価できるが、同施設の設置趣旨や目的に応じた事業開催が望まれる。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	事業開催日数や開催日の検討を行い、国体地元開催競技であるカヌーの普及に努めるとともに、より多くの参加者が得られる工夫を行う必要がある。		見直し額	
		評価	C		

二次評価	事業の評価	指導者の都合により実施できなかった教室があったが、ほぼ予定通り開催できた。水泳教室が好評であり、参加者数が増えた。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	多様化した市民のスポーツニーズに対応した新たな取り組みが必要である。		評価	

5 学識経験者の意見

(1) 評価委員会

平成20年4月から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、教育委員会に、その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行い報告書を作成することが義務付けられた（第26条）ところですが、併せて、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験者の知見の活用を図ることが規定されています。（第26条第2項）。

法改正の主旨を踏まえ、大野市教育委員会では、次の方々に平成26年度の『点検・評価報告書』に関する意見をいただくこととしました。

評価委員（敬称略）

氏名	現職（元職）	専門分野等
井上 武史	福井県立大学地域経済研究所准教授	地方行政、事務事業評価
古川 清澄	元和泉小学校長	学校教育
石原 里美	大野市美術展運営委員会委員	芸術・文化振興

学識経験者の知見の活用については、意見を聴取する機会を設け、ご意見をいただくことになっています。

大野市教育委員会では、平成27年8月19日（水）に評価委員会を開催し、評価委員の方々に、教育委員会の実施した事業について関係課長が事業内容を説明した後、意見交換を行いました。

この結果を踏まえ、教育委員会で作成した点検・評価報告書に対し、評価委員の方々より次頁のとおりご意見をいただきました。

(2) 評価委員の意見

福井県立大学地域経済研究所准教授 井上 武史

大野市教育委員会が実施した平成26年度実施事業の評価結果について、意見を述べる。

まず、評価結果をとりまとめた報告書の構成については、これまで指摘したことの大部分が反映されてきた。大野市における教育の全体的な方針の表記から始まり、分野ごとの重点施策や重点事業についての記述、そして評価対象となった事業の評価（成果と課題、今後の方向性）へと続く形である。これは、評価に不可欠な PDCA サイクルに沿った順序となっており、評価結果の理解が容易である。すなわち、全体的な方針に基づいて、各事業がどのような意義の下で計画されているのか（P=PLAN）、何を実施して（D=DO）実際にどのような成果を得たのか（C=CHECK）、そして、課題から次年度の事業をどうするか（A=ACTION）という流れで展開されている。とりわけ重要なのは DO と ACTION であり、内容・表現もかなり充実してきた。そして、事業をより深く知るために個票と全事業の評価結果が添付され、評価が適切に行われているかどうかを検証することも可能である。報告書の構成としては、一定の完成形に到達したと言っても良いのではないだろうか。

大野市における評価は、教育委員会だけでなく個票による事務事業評価が網羅的に行われている（一部対象外あり）。その意味では教育委員会の評価もその一部にすぎない。しかし、教育委員会が作成する評価報告書は独自の意義を持つ。すなわち、個票だけでは評価結果の把握は容易でないが、教育委員会の評価報告書では個票よりも全体方針や評価の重要事項の抜粋が中心となっているため、その部分で評価結果を容易に理解することができる。しかも、個票自体も評価結果についての詳しい検証を行うためのツールとして、特に個票に求められている機能を果たしている。ここでは教育委員会以外の評価に対してコメントすることはできないが、教育委員会の評価は大野市における評価の一部という枠組みを越えている点でも、大きな意義があると言えるだろう。

その上で、細かい事項については今後改善を要する点も残っていると思われるので、いくつか指摘することにしたい。

まず、個票の記述のなかには説明として十分でない部分が見受けられることである。

例えば、内容に具体性が欠ける点がある。「参加者数を増やす工夫が必要」「連携を強化する」など、方向性として言いたいことは理解できるが、具体策がなければ取り組みが行われるという期待が持てず、適切な評価が行われているかどうか判断できない。また、根拠に乏しい点もある。「要望が多い」「好評である」等は、アンケート調査の数値などがなければ説得性に欠けるだろう。

第2に、自治への志向性を持っていただきたい、ということである。これはきわめて難しいテーマであるが、好例となるのが国際理解教育推進員配置事業である。当該事業では県に財源を要望しているが、有効性が高いため先行して単独でALTが増員されることとなった。従来行政は法律や財政支援が優先され、自治体独自の政策が先行することは稀である。しかし、地方分権が進み、条例による自治体の裁量や自主財源が拡大し、有効性や効果からの対応がより重要な状況になってきている。こうした動きをさらに進めるには、自治体の側から法律や財政支援を乗り越える積極性が必要であり、評価はそのためのツールとして重要である。国際理解教育推進員配置事業には、こうした志向の一端を窺うことができた。ただし、その他の事業については、依然として多くが法律や財源に左右されているのは否めない。大半の自治体が同様の状況であるから必ずしも悲観する必要はないかもしれないが、有効性や成果の視点に重点を置いた評価と改善・充実の実行を今後さらに多くの事業で進めていただきたい。

第3に、地方創生の観点からコメントしたい。ふるさとの魅力や歴史を市民が理解し愛着を深めることが地方創生のカギと捉えられている。そこで、教育委員会では学校教育と生涯学習いずれの分野でも地方創生に結びつく取り組みが積極的に行われている。とりわけ、大野市全体で「結の故郷（ゆいのくに）」という印象深いキャッチフレーズを掲げており、教育委員会の事業名にも多く用いられている。しかし、学校教育では「結の故郷」がカリキュラムに組み込まれ児童・生徒への普及が図られている半面、生涯学習の場では講座やイベントへの参加者数に必ずしも結びついているわけではなく、やや苦戦している状況が伺える。それぞれの分野について教育委員会の積極性に違いがあるわけではないだろうが、生涯学習では参加者の固定化や高齢化が目立ち、学校教育を終えた若年層や子育て世代に大野市の魅力が十分伝わっていないと考えられる。こうした状況を打開することは容易ではないが、学校教育の対象となる児童・生徒が両親や祖父母などと一緒に生涯学習の場で大野市の魅力を共有する

機会を設けることが1つの契機になるかもしれない。他にも方策はあるだろうが、さまざまな可能性について仮説と検証を繰り返して成果に結びつけていただきたい(この点について、歴史博物館特別展開催事業で能面展の来場者が少なかった点が課題とされているが、市外からの来客が多かったことは今後の可能性につながる面もある。昨年度も同様のことを述べたが、新規参加者の開拓に向けた積極的な取り組みを評価することも重要であろう)。

今回は3つの点を指摘した。教育委員会の評価報告書は、構成としては一定の完成形に到達したと思われる。今回指摘したことは個票の書き方が中心となり、市全体における評価の記載とも関係する。市全体の評価との整合性を図る必要はあるが、むしろ教育委員会が市全体の評価をより適切に行えるように先導するような役割も果たすことを期待したい。

大野市教育委員会所管の事業についての点検及び評価報告書に関して、今回評価委員として参加することとなった。

全体的に、この報告書は仔細な内容で丁寧であると感じた。

このような評価は、現実の直視、内容の客観的検証、担当者と関係者の共有、次への対策、そして実行へと繋がるものである。そこでは、公表が前提ということであれば、担当者が常に市民の目線で検証し、特に文字での表現は実際の言葉とは違い正確に伝わらないこともある、という意識を持たなければならない。

様々な事業が継続されていく場合、拡大するのか縮小するのかを判断する根拠を明確にすることと、評価担当者の交代による遺漏がないことが求められる。

ふるさと文化創造事業において、教育現場である学校の負担が大きいという現状分析があったが、具体的な改善方策が必要である。子ども達が、ふるさとに誇りと愛着を持つためには、それぞれの小さな地域での活動を支援、充実させていくことが重要と考える。

いじめ対策事業と登校支援員配置事業は、協議会の設置、関係機関との連携、専門家への依頼、様々な児童生徒に対応する支援員の配置等の対策が実行されているが、更に地域や保護者を巻き込んで取り組んでいきたい。いじめの認知件数目標は、段階的にとということであろうが、当然いじめ0件を目指すべきである。また、年々発達障害を持つ児童生徒など支援を必要とする児童生徒数は増加している。原因は何であるか、それをどう考えるかということも検討してほしい。

生涯学習では、積極的に学習の機会や学習情報が提供をされているが、どの講座においても参加者数が課題となっている。市民のニーズを知るために受講者へのアンケートだけでなく、口コミのリーダー等、新しい広報周知、意欲喚起の方法を考えたい。

この報告書を市民全体で共有し、将来の大野市をみつめて、マンネリ化せず着実に進んでいきたい。

平成20年度から実施されてきた事務管理及び執行の点検、評価報告書について、年々、色々な面において改善されてきている。各事業の評価についての評点にも変化がみられる。しかし、総合評価に「D」と評価された事業は今までなかったように思う。「D（不適切であった）」の評点は必要なのだろうか。辛口に評価することが好まれないのであれば、三段階にして少し手厳しく評価してはどうか。

さて、事業内容、今後の方向性について、生涯学習の事業は未来を考えながら現状を向上させようとしている。平成大野丸中学生派遣事業は市制60周年記念として実施された。今後も市制何周年等、特別な機会に実施を考えているらしいが、「人と人とのつながりや縁（えにし）を強め大野を愛する心を育てたい」のであれば、記念事業にするのではなく、大野市と繋がりのある姉妹都市など、大野市と何らかの関係がある町に、毎年、少人数でも派遣し、色々な意味での郷土愛を育む力を持たせる機会を与えてはどうか。「継続は力なり」。続けることの重要性。微々たるものであっても、地道に成果を積み重ねることが大切ではないかと思う。

これは少年教育推進事業の「ジュニアリーダー」に関しても同様と思う。以前は中学の時にジュニアリーダーをしていた子ども達が、高校生になってOB、OGとしてボランティアに参加していたと思うが、このようなことはなくなったのだろうか。

文化発信事業である「感性はがき展」については、全国から大変多くの作品が応募されている。応募数がテーマによって増減するのは仕方ない。このはがき展は完成度の高い作品も多く見られ、感動する良い事業である。一人でも多くの市民の目にとまってほしいと願う。また、大野市の小中学生、高校生も多く参加しているのだから、上位入賞作品、その他（一次審査、二次審査を通過した）作品を鑑賞してもらい、次回の応募の参考にしてもらってはどうか。学生らのイメージを膨らませる力となるのではないか。そのためにも展示方法、展示場所等を再度検討していただきたい。フェイスブックに一部あげられているが、もっと広めてほしい。

生涯学習推進事業において、今、大野市の中高老年世代の趣味的な講座への参加者の意欲にはパワーを感じる。それに対し、若年層に関しては関心が低いという課題があがっているが、これも難しい問題がある。しかし、若いメンバーが各々で様々

なイベントを企画し、実施しようとしている。若年層が必要と考える事業を、若い人達とディスカッションする場を設け、事業のプラスになるようにしてほしい。「ふるさとを知り、ふるさとを創る」、そのために継続する力を育てて頂きたい。

「子ども達や市民にとって何がよいのか」という視点に立ち、地域、学校現場、家庭の協力を得て連携を図る中で、大野だからこそできる、大野人を育てる事業の充実を願っている。

6 終わりに

平成26年度に実施した事務事業について点検・評価を行う、大野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書を作成いたしました。

本市におきましては、大野市教育理念「明倫の心を重んじ 育てよう 大野人」を普遍のバックボーンとして、古来より本市の先人が培ってきた豊かな人間性をしっかりと受け止め、優しく、賢く、たくましい大野人を育てることを基本としながら、学校教育、生涯教育、文化振興、スポーツ振興の分野において、さまざまな事務事業に取り組んでいるところです。

この報告書を作成するにあたり、昨年度いただいた指摘事項を、2課2室の職員で今一度確認しました。報告書の作成についてはもちろんですが、現在進行している今年度の事務事業の進め方、講座の持ち方や施設の管理などにどんなことが必要なのか改めて皆で考え、共有いたしました。

8月19日には評価委員会を開催し、作成した報告書（案）について学識経験者の方からご意見を頂戴しました。評価委員の皆様からは、事業に対する率直なご感想を数多くお聞きすることができました。具体的な改善策を提示する必要性や、成果を積み上げることの大切さ等、貴重なご指摘もいただきました。担当者自身が、常に市民目線で客観的に振り返りながら事業を執行することの重要性を、改めて痛感しております。市の評価とは違う角度からの評価と新たな可能性をご指導いただいた事業もあり、とても励みになりました。

事務事業はどれも、前年度の反省や試算などを含めた十分な計画、事業の執行、振り返りと評価シートの作成、次年度への活用という過程を経ています。

しかし、評価委員の皆様からご意見をいただくことで、毎年、職員として新たな気づきと反省があり、市の教育行政を担う一員であることの責務を改めて感じております。職員一人一人が、この評価と指摘事項を真摯に受け止め、大野市教育理念が示す教育の根本に立ち返りながら、更なる事務事業の改善につなげていけるよう、引き続き取り組んで参ります。

結びに、この報告書の作成にあたり、多大なご尽力をいただきました評価委員の皆様をはじめ、日頃から多くの貴重なご意見をお寄せいただいております市民の皆様、心から御礼申し上げます。

参 考 資 料

関 係 法 令

<地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）>

（平成19年6月27日改正 平成20年4月1日施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

<地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について(抜粋)>

（19文科初第535号 平成19年7月31日 文部科学事務次官通）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

○ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第26条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

○ 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。

② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組みを行っている場合には、その手法を活用しつつ、適正に対応すること。

③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること

平成26年度に事務事業評価の対象となった教育委員会関係の全事業

(網掛けは・本年度評価対象事業)

No.	担当課	事業名称	事業費（千円）及び総合評価の比較					
			平成26年度		平成25年度		平成24年度	
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価
1	教育総務課	学校評議員制度運営経費	533	A	532	A	540	A
2	教育総務課	ふるさと文化創造就業	837	A	486	A	530	A
3	教育総務課	国際理解教育推進員配置事業	4,597	B	4,303	A	4,684	A
4	教育総務課	適応指導教室推進事業	5,557	A	5,432	B	6,195	A
5	教育総務課	いじめ防止対策研究事業	242	A	229	A		
6	教育総務課	いじめ防止対策事業	634	A				
7	教育総務課	非常勤講師配置事業	1,070	A	2,051	A	3,142	A
8	教育総務課	結の故郷教育相談員配置事業	6,588	A	6,383	B	6,336	A
9	教育総務課	結の故郷教育支援員配置事業	29,492	B	28,377	B	23,206	A
10	教育総務課	スクールソーシャルワーカー配置事業	743	B	751	B	623	A
11	教育総務課	活力ある学校づくり推進事業	3,421	B	3,440	B	3,543	B
12	教育総務課	小学生結文化伝承事業	180	A				
13	教育総務課	食育推進事業	358	A	542	B	273	B
14	教育総務課	結の故郷奨学金事業	111	A				
15	教育総務課	小中学校連合音楽会事業	492	A	492	B	495	B
16	教育総務課	小学校連合体育大会事業	900	A	797	A	813	A
17	教育総務課	中学校体育実技研修事業	880	B	880	B	880	B

18	教育総務課	(低学年)学校生活サポート推進事業	206	B	186	B	115	A
19	教育総務課	コア・ティーチャー養成事業	309	A	113	B	109	A
20	教育総務課	小学校スクールバス運行事業	13,464	A	13,421	A	12,242	A
21	教育総務課	小学生の嶺南・嶺北交流事業	287	A				
22	教育総務課	要保護・要保護児童生徒就学援助事業(小)	6,741	A	6,930	A	8,413	A
23	教育総務課	特別支援教育就学奨励事業(小)	615	A	964	A	1,096	A
24	教育総務課	遠距離通学補助	1,099	B	984	B	918	B
25	教育総務課	中学校スクールバス運行事業	11,490	A	12,308	A	12,458	A
26	教育総務課	要保護・要保護児童生徒就学援助事業(中)	8,203	A	8,959	A	9,183	A
27	教育総務課	特別支援教育就学奨励事業(中)	790	A	761	A	498	A
28	教育総務課	私立幼稚園就園奨励費補助	2,292	A	2,638	A	2,856	A
29	教育総務課	私立幼稚園振興補助	378	A	665	A	683	A

以上・教育総務課分29事業

No.	担当課	事業名称	事業費(千円)及び総合評価の比較					
			平成26年度		平成25年度		平成24年度	
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価
30	生涯学習課	生涯学習人材活用事業	1,016	B	976	A	1,133	A
31	生涯学習課	生涯学習推進事業	472	B	779	B	705	B
32	生涯学習課	家庭教育推進事業	148	B	168	B	168	B
33	生涯学習課	少年教育推進事業	194	B	1,022	A	307	A
34	生涯学習課	青年活動推進事業	1,233	B	1,785	A	1,785	A

35	生涯学習課	青少年健全育成推進事業	1,600	A	1,600	A	1,600	A	1,600	A
36	生涯学習課	成人式事業	897	B	1,031	A	1,026	A	1,026	A
37	生涯学習課	ふるさと大野今昔物語事業	3,002	A	2,676	A	2,528	A	2,528	A
38	生涯学習課	まちむらづくり運動推進事業	883	A	886	A	886	A	886	A
39	生涯学習課	人権同和教育推進事業	506	B	453	B	449	A	449	A
40	生涯学習課	視聴覚教育・IT活用推進事業	342	B	449	B	414	B	414	B
41	生涯学習課	放課後子ども教室事業	8,296	A	8,489	A	8,612	B	8,612	B
42	生涯学習課	こころの豊かさ再発見事業	94	A	94	A	56	A	56	A
43	生涯学習課	平成大野丸中学生派遣事業	5,183	A						
44	大野公民館	結の故郷・人づくり学習事業	1,477	B	1445	B	1,290	A	1,290	A
45	下庄公民館	結の故郷・人づくり学習事業	623	A	473	A	373	A	373	A
46	乾側公民館	結の故郷・人づくり学習事業	399	A	483	A	446	A	446	A
47	小山公民館	結の故郷・人づくり学習事業	655	A	646	A	520	A	520	A
48	上庄公民館	結の故郷・人づくり学習事業	759	A	712	A	604	A	604	A
49	富田公民館	結の故郷・人づくり学習事業	711	A	676	B	699	A	699	A
50	阪谷公民館	結の故郷・人づくり学習事業	723	B	728	A	672	A	672	A
51	五箇公民館	結の故郷・人づくり学習事業	283	A	295	B	257	A	257	A
52	和泉公民館	結の故郷・人づくり学習事業	618	B	703	B	664	A	664	A
		結の故郷・人づくり学習事業 (全公民館総括)	(6,248)	(A)	(6,161)	(B)	(5,521)	(A)	(5,521)	(A)
53	生涯学習課	市美展開催事業	823	A	725	B	674	B	674	B
54	生涯学習課	市総合文化祭開催事業	1,198	B	1,196	B	1,170	B	1,170	B
55	生涯学習課	文化発信事業	1,443	B	2,000	B	862	A	862	A

56	生涯学習課	文化公演事業	4,952	B	3,689	B	9,405	B
57	生涯学習課	地域文化振興事業	2,019	A	493	A	469	B
58	大野公民館	文化講座開催事業	137	B	252	B	220	A
58	下庄公民館	文化講座開催事業	147	B	41	B	75	B
60	乾側公民館	文化講座開催事業	115	B	118	B	126	B
61	小山公民館	文化講座開催事業	68	B	135	B	133	A
62	上庄公民館	文化講座開催事業	135	B	151	B	175	A
63	富田公民館	文化講座開催事業	120	B	120	A	156	B
64	阪谷公民館	文化講座開催事業	111	B	81	B	81	B
65	五箇公民館	文化講座開催事業	123	B	85	B	79	B
66	和泉公民館	文化講座開催事業	140	B	105	B	56	A
67	図書館	読書推進事業	860	B	403	B	578	A
68	図書館	子どもの読書活動推進事業	910	B	827	A	1,015	A

以上・生涯学習課分39事業

No.	担当課	事業名称	事業費（千円）及び総合評価の比較					
			平成26年度		平成25年度		平成24年度	
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価
69	文化財保護室	埋蔵文化財発掘調査事業	79	B	171	B	113	B
70	文化財保護室	無形文化財保存育成事業補助	340	B	340	B	340	A
71	博物館	歴史博物館特別展開催事業	2,192	B				
72	市史編さん室	市史編さん事業	9,504	B	9,740	B	10,225	B

73	本願清水イトヨの里	イトヨの里保護啓発推進事業	482	B	303	A	293	B
----	-----------	---------------	-----	---	-----	---	-----	---

以上・文化財保護室分5事業

No.	担当課	事業名称	事業費 (千円) 及び総合評価の比較					
			平成26年度		平成25年度		平成24年度	
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価
74	スポーツ振興室	生涯スポーツ推進事業 (全公民館総括を含む)	(2,531)	(B)	(2,496)	(A)	(2,210)	(B)
75	大野公民館	生涯スポーツ推進事業		B		B		A
76	下庄公民館	生涯スポーツ推進事業		A		A		A
77	乾側公民館	生涯スポーツ推進事業		B		B		
78	小山公民館	生涯スポーツ推進事業		B		B		A
79	上庄公民館	生涯スポーツ推進事業		B		A		A
80	富田公民館	生涯スポーツ推進事業		A		A		A
81	阪谷公民館	生涯スポーツ推進事業		B		A		
82	五箇公民館	生涯スポーツ推進事業		B		B		B
83	和泉公民館	生涯スポーツ推進事業		C		A		
84	スポーツ振興室	越前大野名水マラソン開催事業	22,873	A	16,675	B	16,000	A
85	スポーツ振興室	各種大会開催事業	4,710	B	4,584	B	4,513	B
86	スポーツ振興室	学校体育施設開放事業	7,572	A	7,392	A	6,538	A
87	スポーツ振興室	競技力向上対策事業	3,934	B	4,205	B	4,288	A
88	スポーツ振興室	福井しあわせ元気国体強化育成交付金事業補助	2,000	B				
89	スポーツ振興室	スポーツ交流大会開催事業補助	206	B	379	B	389	A

90	スポーツ振興室	ジュニアクラブ活動促進補助	200	B	200	A	100	B
91	スポーツ振興室	わんぱく相撲大野場所開催事業補助	140	A	140	A	140	A
92	B&G _{海洋} センター	海洋センター活用促進事業	615	B	530	B	448	B

以上・スポーツ振興室分19事業

教育委員会合計 92事業

教育委員会組織図

